

海外食料需給レポート

(Monthly Report : 2月)

平成22年2月26日

農林水産省

目 次

I 穀物

1	2009/10年度の国際的な穀物需給の概要	1
	【参考】2009/10年度穀物需給予測の主な改訂	2
2	小麦	
(1)	国際的な小麦需給の概要	3
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	4
イ	カナダ	5
ウ	豪州	5
エ	EU-27	6
オ	中国	6
カ	インド	7
キ	ロシア	7
ク	アルゼンチン	8
ケ	ウクライナ	8
3	とうもろこし	
(1)	国際的なとうもろこし需給の概要	9
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	10
イ	中国	11
ウ	アルゼンチン	12
エ	ブラジル	13
オ	EU-27	13
4	大麦	
(1)	国際的な大麦需給の概要	14
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	豪州	15
イ	カナダ	15
ウ	米国	16
エ	EU-27	17
オ	ウクライナ	17
カ	ロシア	18
5	ソルガム	
(1)	国際的なソルガム需給の概要	19
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	20
イ	アルゼンチン	21
ウ	中国	21

エ	豪州	22
オ	インド	22
6	米	
(1)	国際的な米需給の概要	23
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	中国	24
イ	インド	25
ウ	インドネシア	26
エ	タイ	27
オ	ベトナム	28
カ	フィリピン	29
キ	米国	30

II 油糧種子

1	2009/10年度の国際的な油糧種子需給の概要	31
	【参考】2009/10年度油糧種子需給予測の主な改訂	32
2	大豆	
(1)	国際的な大豆需給の概要	33
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	34
イ	ブラジル	35
ウ	カナダ	35
エ	中国	36
オ	アルゼンチン	37
3	なたね	
(1)	国際的ななたね需給の概要	38
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	カナダ	39
イ	豪州	39
ウ	EU-27	40
エ	中国	41
オ	インド	41

III 今月のトピックス

○	ロシアがめざす食料安全保障	42
○	2010/11年度における米国の穀物等需給見通しについて	45
	【参考】穀物等の国際価格の動向（グラフ）	47
	【利用上の注意】	48

I 穀物

1 2009/10年度の国際的な穀物需給の概要

○2009/10年度の穀物需給（予測）のポイント

2009/10年度の穀物生産量は、とうもろこしが前年を上回るものの、小麦、大麦、ソルガム、米は前年を下回ると見込まれる。

一方、消費量は、ソルガムを除く全ての穀物で前年よりも増加すると見込まれ、とうもろこし、ソルガム、米では消費量が生産量を上回るものの、穀物全体としては、3年連続で消費量を上回る生産量が確保されると見込まれる。

このため、穀物全体の期末在庫量は積み増しが行われ、期末在庫率も増加すると見込まれる。

【生産量】

世界の穀物全体の生産量は、とうもろこしを除く全ての穀物で減少すると見込まれ、前年度より22.4百万トン減少（▲1.0%）し、2,209.2百万トンとなる見込みである。

品目別には、世界的に増産となった前年度と比較して、小麦については、市場価格の低下や経済の減退による面積の減少、大麦については単収の低下、米については、インドの降水不足等による減産が見込まれている。

【消費量】

世界の穀物全体の消費量は、堅調な食用、エタノール原料用の需要の増加などから、前年度より41.0百万トン増加（1.9%）し、2,188.2百万トンとなる見込みである。

品目別には、とうもろこしについては、米国でエタノール需要を中心とした増加、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、小麦については、食用需要を中心としてインド、ロシア等で増加が見込まれる。

【貿易量】

世界の穀物全体の貿易量は、前年度より18.1百万トン減少（▲6.4%）し、265.4百万トンとなる見込みである。

品目別には、とうもろこしについては、米国やブラジルの輸出量の増加が見込まれるものの、小麦については、生産量の減少に伴い、EU、米国、ウクライナ等で輸出量が減少すると見込まれている。

【期末在庫量】

世界の穀物全体の期末在庫量は、生産量が消費量を上回ると見込まれていることから前年度より21.0百万トン増加（4.7%）し、467.9百万トンとなる見込みである。また、穀物全体の期末在庫率は、期末在庫量が積み増しされることから、21.4%と0.6ポイント上昇する見込みである。

品目別には、小麦、大麦、については生産量が消費量を上回り、期末在庫量が積み増しされるが、とうもろこし、ソルガム、米については生産量が消費量を下回り、期末在庫量が取り崩されると見込まれている。

表－1 世界の穀物需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	穀物計	2122.7	2231.6	2209.2	4.4	▲ 1.0
	小麦	610.5	682.7	677.4	1.3	▲ 0.8
	粗粒穀物	1,077.9	1,101.6	1,095.5	1.6	▲ 0.6
	(とうもろこし)	791.9	791.5	797.8	1.4	0.8
	(大 麦)	132.7	154.0	148.9	▲ 0.3	▲ 3.3
	(ソルガム)	66.3	64.5	62.3	0.0	▲ 3.4
	米	434.4	447.3	436.3	1.6	▲ 2.5
消 費 量	穀物計	2101.5	2147.2	2188.2	4.9	1.9
	小麦	617.0	639.8	645.6	1.1	0.9
	粗粒穀物	1,056.0	1,072.5	1,105.5	3.1	3.1
	(とうもろこし)	771.1	775.2	809.7	3.4	4.4
	(大 麦)	133.9	143.8	146.2	▲ 1.0	1.7
	(ソルガム)	65.3	64.7	62.6	0.4	▲ 3.2
	米	428.5	434.9	437.1	0.6	0.5
う ち、 飼 料 用	穀物計	751.7	757.0	772.6	1.7	2.1
	小麦	96.3	112.7	111.5	0.9	▲ 1.1
	粗粒穀物	655.4	644.3	661.1	0.8	2.6
	(とうもろこし)	496.3	478.4	493.6	1.1	3.2
	(大 麦)	91.7	100.1	101.8	▲ 0.9	1.7
	(ソルガム)	29.4	26.3	25.3	0.4	▲ 3.8
	米
貿 易 量	穀物計	275.6	283.5	265.4	0.9	▲ 6.4
	小麦	117.2	142.9	123.8	0.6	▲ 13.4
	粗粒穀物	127.1	112.0	110.6	0.2	▲ 1.3
	(とうもろこし)	98.6	83.3	84.8	0.2	1.8
	(大 麦)	15.5	20.0	17.1	▲ 0.3	▲ 14.7
	(ソルガム)	9.7	6.2	6.0	0.0	▲ 3.4
	米	31.2	28.6	31.1	0.1	8.6
期 末 在 庫 量	穀物計	362.6	446.9	467.9	1.4	4.7
	小麦	121.1	164.0	195.9	0.3	19.4
	粗粒穀物	160.5	189.6	179.5	▲ 0.7	▲ 5.3
	(とうもろこし)	129.6	145.9	134.0	▲ 2.2	▲ 8.1
	(大 麦)	19.6	29.7	32.4	1.1	9.0
	(ソルガム)	5.3	5.2	5.0	0.2	▲ 5.0
	米	81.0	93.3	92.5	1.8	▲ 0.9
期 末 在 庫 率	穀物計	17.3%	20.8%	21.4%	0.0	0.6
	小麦	19.6%	25.6%	30.3%	▲ 0.0	4.7
	粗粒穀物	15.2%	17.7%	16.2%	▲ 0.1	▲ 1.4
	(とうもろこし)	16.8%	18.8%	16.6%	▲ 0.3	▲ 2.3
	(大 麦)	14.6%	20.7%	22.2%	0.9	1.5
	(ソルガム)	8.2%	8.1%	7.9%	0.3	▲ 0.1
	米	18.9%	21.5%	21.2%	0.4	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS &D」

注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2009/10年度穀物需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、生産量は大麦で下方修正されたものの、小麦、とうもろこし、米で上方修正され、穀物全体では4.4百万トン上方修正されている。消費量は大麦で下方修正されたものの、小麦、とうもろこし、ソルガム、米で上方修正され、穀物全体では4.9百万トン上方修正されている。また、期末在庫量はとうもろこしが下方修正されたものの、小麦、大麦、ソルガム、米が上方修正され、穀物全体では1.4百万トン上方修正された。

○ 小麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.3	1.1	0.9	0.6	...	0.3
米国	-	-	-	-	0.1	0.1
カナダ	-	0.8	0.8	-	-	▲ 0.8
豪州	-	-	-	-	0.0	0.0
EU-27	▲ 0.1	-	-	-	-	▲ 0.1
中国	-	-	-	-	-	-
インド	-	-	-	-	-	-
ロシア	-	-	-	-	-	-
アルゼンチン	1.0	-	-	1.0	-	-
ウクライナ	0.4	-	-	-	-	0.4

○ とうもろこし

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.4	3.4	1.1	0.2	...	▲ 2.1
米国	-	2.4	-	▲ 1.3	-	▲ 1.1
中国	-	-	-	-	0.1	0.1
アルゼンチン	2.2	1.2	1.2	1.5	-	▲ 0.7
ブラジル	-	-	-	-	-	-
EU-27	▲ 0.4	-	-	-	-	▲ 0.4

○ 大麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	▲ 0.3	▲ 1.0	▲ 0.9	▲ 0.3	...	1.1
豪州	-	▲ 0.2	▲ 0.2	-	-	0.1
カナダ	-	-	-	-	-	-
米国	-	-	-	-	-	-
EU-27	0.0	-	-	▲ 0.5	-	0.5
ウクライナ	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 0.3	-	-	0.1
ロシア	▲ 0.1	-	-	-	▲ 0.1	▲ 0.2

○ ソルガム

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	-	0.4	0.4	0.0	...	0.2
米国	-	-	-	-	-	-
アルゼンチン	-	-	-	-	-	▲ 0.0
豪州	-	0.3	0.3	-	-	0.2
中国	-	-	-	-	-	-
インド	-	-	-	-	-	▲ 0.0

○ 米

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.6	0.6	...	0.1	...	1.8
中国	-	-	...	-	-	0.0
インド	-	-	...	-	-	-
インドネシア	1.8	0.2	...	0.0	▲ 0.1	1.5
タイ	▲ 0.1	▲ 0.0	...	-	-	0.7
ベトナム	-	-	...	-	-	-
フィリピン	▲ 0.1	-	...	-	-	▲ 0.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：期末在庫量の変更については、2008/09年度の需給データの改訂により、2009/10年度の期首在庫量が修正されたことに伴う場合もある。

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2009/10年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、世界的に増産となった前年度より収穫面積が減少することなどから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、堅調な食料用需要の増加が、飼料用需要の減少を上回り、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、2年連続して生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も上昇し、世界の小麦需給は緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、豊作であった前年度と比較して、市場価格の低下や経済の減退による影響から収穫面積が減少すること等から、インド、中国、豪州では増産となるものの、EU、米国、カナダ、ロシア等で減産となり、世界全体では前年度より5.3百万トン減少（▲0.8%）し、677.4百万トンとなる見込みである。なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では、1.3百万トン上方修正されており、国別には、EUで下方修正された。

【消費量】

消費量は、米国等では減少するものの、食料用需要を中心にインド、ロシア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より5.8百万トン増加（0.9%）し、645.6百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では1.1百万トン上方修正されており、国別には、トルコで上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、19.1百万トン減少（▲13.4%）し、123.8百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では豪州等で輸出量が増加するものの、EU、米国、ウクライナ、アルゼンチン等で輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、ブラジル、インドネシア、日本で輸入量の増加、モロッコ、EU、エジプト等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン上方修正されており、国別には、輸出国では、アルゼンチンで上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、2年連続で生産量が消費量を上回ることから、中国、米国、インド等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より31.9百万トン増加（19.4%）し、195.9百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も30.3%と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で、0.3百万トン上方修正されており、国別には、米国等で上方修正、カナダ、EUで下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	610.5	682.7	677.4	1.3	▲0.8
EU-27	120.1	151.1	138.2	▲0.1	▲8.5
中国	109.3	112.5	114.5	-	1.8
インド	75.8	78.6	80.6	-	2.6
ロシア	49.4	63.7	61.7	-	▲3.1
米国	55.8	68.0	60.3	-	▲11.3
カナダ	20.1	28.6	26.5	-	▲7.4
豪州	13.6	20.9	22.5	-	7.5
消費量	617.0	639.8	645.6	1.1	0.9
うち飼料用	96.3	112.7	111.5	0.9	▲1.1
EU-27	116.5	127.5	127.0	-	▲0.4
中国	106.0	102.5	102.0	-	▲0.5
インド	76.4	70.8	76.1	-	7.6
ロシア	37.7	38.9	41.2	-	5.9
米国	28.6	34.3	32.2	-	▲6.2
パキスタン	22.4	22.8	23.3	-	2.2
トルコ	16.8	16.9	17.4	0.1	3.0
貿易量	117.2	142.9	123.8	0.6	▲13.4
(輸出)					
米国	34.4	27.6	22.5	-	▲18.8
EU-27	12.3	25.3	19.0	-	▲25.0
カナダ	16.1	18.8	18.5	-	▲1.6
ロシア	12.6	18.4	18.0	-	▲2.1
豪州	7.5	14.7	15.0	-	1.9
ウクライナ	1.2	13.0	9.0	-	▲31.0
アルゼンチン	11.2	6.7	3.5	1.0	▲47.7
(輸入)					
エジプト	7.7	9.9	8.8	-	▲11.1
EU-27	6.9	7.7	6.5	-	▲16.0
ブラジル	6.7	6.0	6.5	-	8.3
インドネシア	5.2	5.4	5.5	-	1.4
日本	5.7	5.2	5.3	-	2.8
アルジェリア	5.9	6.4	5.3	-	▲16.7
モロッコ	4.2	3.8	1.8	-	▲52.1
期末在庫量	121.1	164.0	195.9	0.3	19.4
中国	39.0	48.7	60.8	-	24.9
EU-27	12.3	18.3	17.1	▲0.1	▲7.0
米国	8.3	17.9	26.7	0.1	49.4
インド	5.8	13.5	18.0	-	33.4
ロシア	1.8	8.4	11.1	-	32.0
カナダ	4.4	6.6	6.9	▲0.8	4.6
豪州	3.7	3.1	3.6	0.0	15.9
期末在庫率	19.6%	25.6%	30.3%	▲0.0	4.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、豊作であった前年度より収穫面積、単収とも減少するため、7.7百万トン減少（▲11.3%）し、60.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、食料用需要の増加が飼料用需要の減少を下回ると見込まれることから前年度より2.1百万トン減少（▲6.2%）し、32.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少や世界的な輸出競争の激化等から5.1百万トン減少（▲18.8%）し、22.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.4百万トン減少（▲9.5%）し、3.1百万トンの見込みである。

この結果、前年度大幅に増加した期末在庫量は、さらに8.8百万トン増加（49.4%）し、26.7百万トンとなり、期末在庫率は48.9%（20.0ポイント増）と22年ぶりの高水準となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、南米や欧州からの飼料向け品質の小麦の輸入の増加見通しから輸入量が0.1百万トン上方修正されたため、期末在庫量は0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の春小麦については、雨がちな天候からノースダコタ州等で作付けが遅れたことから、9月末から10月始めにかけてようやく収穫が終了した。

2010/11年度の冬小麦の作付けは、とうもろこしや大豆の生産地域を中心に収穫作業の遅れ等により、遅れて終了した。発芽率は、12月6日現在、93%で、平年より遅れている。

作柄については、12月6日現在で優良～良が63%と前年度最終（47%）を上回っており、降雪によるスノーカバーの状態、概ね良好な状態で休眠している。

なお、米国農務省の冬小麦の作付状況報告によれば、2010/11年度の冬小麦の作付面積は、15.0百万ヘクタールと前年度の17.5百万ヘクタールを14%下回り、1913年以來の低い水準となる見通しである。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース63.3%）
世界の生産量シェア 5位（2009/10年度 8.9%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 18.1%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.8	68.0	60.3	-	▲ 11.3
消費量	28.6	34.3	32.2	-	▲ 6.2
うち飼料用	0.4	7.0	4.6	-	▲ 34.1
輸出量	34.4	27.6	22.5	-	▲ 18.8
輸入量	3.1	3.5	3.1	0.1	▲ 9.5
期末在庫量	8.3	17.9	26.7	0.1	49.4
期末在庫率	13.2%	28.9%	48.9%	0.3	20.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	20.64	22.54	20.18	-	▲ 10.5
単収(t/ha)	2.70	3.02	2.99	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗及び作柄

〔生育進捗状況（2010/11年度冬小麦：主要18州）〕
（12月6日現在）

発芽率 93%

〔作柄（2010/11年度冬小麦：主要18州）〕 （12月6日現在）

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2010/11	13	50	31	5	1
(2009/12/6)	前年度同時期	-	-	-	-	-
	前年度最終	11	36	26	14	13

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

注：冬小麦の12月6日の公表値に前年度同時期のデータは含まれていない。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年度より減少し、豊作であった前年度と比べて産地の乾燥等により単収が減少することから、2.1百万トン減少（▲7.4%）し、26.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（0.9%）し、8.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.3百万トン減少（▲1.6%）し、18.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量と輸入量の計が消費量と輸出量の計を上回るため、前年度より0.3百万トン増加（4.6%）し、6.9百万トンとなり、期末在庫率は、25.8%（1.3ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2009/10年産の小麦の品質低下により飼料向け品質の小麦が増加したため、飼料用需要が上方修正されたことから消費量が0.8百万トン上方修正された結果、期末在庫量が0.8百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫は、サスカチュワン州等での降雨や霜により遅れ、11月中旬に概ね終了した。

2010/11年度の春小麦は、例年、5月頃作付けが開始されるとみられる。なお、カナダ統計局の1月の公表資料によれば、2010/11年度の小麦の作付面積は2009/10年度より4%程度減少すると見込まれている。

ウ 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、前年度に引き続いて増産となり、1.6百万トン増加（7.5%）し、22.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より0.2百万トン増加（3.6%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加から0.3百万トン増加（1.9%）し、15.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並みの0.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（15.9%）し、3.6百万トンと積み増しされ、期末在庫率は16.5%（1.9ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、輸入量がわずかに上方修正されたため、期末在庫量がわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦については、1月におおむね収穫が終了した。クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州では、生育期の降雨が少なかったため、また、西豪州は収穫期の降雨の被害等により前年度より生産量は減少するが、豪州南東部では生育期に適した降雨があったため、生産量が増加する見込みである。

我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース20.4%）
世界の生産量シェア 6位（2009/10年度 3.9%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 14.9%）

表-3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.1	28.6	26.5 (26.5)	-	▲ 7.4
消費量	6.8	8.0	8.1 (8.2)	0.8	0.9
うち飼料用	2.2	3.2	3.2 (3.2)	0.8	▲ 0.3
輸出量	16.1	18.8	18.5 (18.0)	-	▲ 1.6
輸入量	0.4	0.4	0.4 (0.1)	-	5.3
期末在庫量	4.4	6.6	6.9 (7.0)	▲ 0.8	4.6
期末在庫率	19.2%	24.4%	25.8% (26.7%)	▲ 3.9	1.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	8.64	10.03	9.50 (9.54)	-	▲ 5.3
単収(t/ha)	2.32	2.85	2.79 (2.78)	-	▲ 2.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (28 January 2010)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2008年数量ベース16.1%）
世界の生産量シェア 8位（2009/10年度 3.3%）
輸出量シェア 5位（2009/10年度 12.1%）

表-4 豪州の小麦需給（市場年度：10月～翌年9月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.6	20.9	22.5 (21.7)	-	7.5
消費量	6.5	6.9	7.1 (6.7)	-	3.6
うち飼料用	3.5	3.8	4.0 (3.7)	-	6.7
輸出量	7.5	14.7	15.0 (15.1)	-	1.9
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	0.0	▲ 23.1
期末在庫量	3.7	3.1	3.6 (…)	0.0	15.9
期末在庫率	26.1%	14.6%	16.5% (…)	0.1	1.9

(参考)

収穫面積(百万ha)※	12.58	13.15	13.80 (13.79)	-	4.9
単収(t/ha)	1.08	1.59	1.63 (1.57)	-	2.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE 「Australian crop report (16 February 2010)」(※ABAREは作付面積)

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、過去最高の生産量であった前年度と比較して、東欧やスペインの乾燥により、単収が低下することや、油糧種子への転換等から収穫面積が減少すると見られ、前年度より13.1百万トン減少（▲8.5%）し、138.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン減少（▲0.4%）し、127.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から6.3百万トン減少（▲25.0%）し、19.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より1.2百万トン減少（▲16.0%）し、6.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は1.3百万トン減少（▲7.0%）し、17.1百万トンとなり、期末在庫率も11.7%（0.3ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の実績がわずかに上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量がわずかに上方修正された。また、2009/10年度の実績が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の冬小麦は、スペイン等を除いて、降雨が多かったため一部地域で作付けが遅れたが、12月以降、EU東部で積雪が多く、スノーカバーの状態が保たれており、概ね良好な状態で休眠している。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の実績は、単収及び収穫面積がわずかに増加することから、前年度より2.0百万トン増加（1.8%）し、114.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン減少（▲0.5%）し、102.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.3百万トン増加（38.9%）し、1.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン増加（25.0%）し、0.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は12.1百万トン増加（24.9%）し60.8百万トンとなり、期末在庫率も59.0%（11.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄等】

2010/11年度の冬小麦の作付けは11月中旬に概ね終了した。農家の作付け意欲を高めるため、政府の価格支持を目的とした買上政策が継続されたことから、作付面積はわずかに増加すると見込まれている。生育状況は、干ばつの被害のあった雲南省等、南西部の一部地域を除き、降水量が多く、土壌水分が十分に保持されており良好である。

【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課していたが、輸出税については2009年7月1日に撤廃された。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

世界の生産量シェア1位（2009/10年度 20.4%）
輸出量シェア2位（2009/10年度 15.3%）

表-5 EU-27の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	151.1	138.2 (138.7)	▲ 0.1	▲ 8.5
消費量	116.5	127.5	127.0 (125.9)	-	▲ 0.4
うち飼料用	52.4	61.0	59.0 (53.5)	-	▲ 3.3
輸 出 量	12.3	25.3	19.0 (20.2)	-	▲ 25.0
輸 入 量	6.9	7.7	6.5 (7.0)	-	▲ 16.0
期末在庫量	12.3	18.3	17.1 (17.9)	▲ 0.1	▲ 7.0
期末在庫率	9.6%	12.0%	11.7% (12.2%)	▲ 0.1	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.71	26.69	25.46 (25.70)	0.01	▲ 4.6
単収(t/ha)	4.86	5.66	5.43 (5.40)	▲ 0.01	▲ 4.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

(世界の生産量シェア2位（2009/10年度 16.9%）)

表-6 中国の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.3	112.5	114.5 (114.0)	-	1.8
消費量	106.0	102.5	102.0 (…)	-	▲ 0.5
うち飼料用	8.0	5.0	5.0 (…)	-	0.0
輸 出 量	2.8	0.7	1.0 (0.3)	-	38.9
輸 入 量	0.1	0.5	0.6 (0.3)	-	25.0
期末在庫量	39.0	48.7	60.8 (…)	-	24.9
期末在庫率	35.8%	47.2%	59.0% (…)	-	11.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.72	23.62	24.00 (23.60)	-	1.6
単収(t/ha)	4.61	4.76	4.77 (4.83)	-	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、過去最高の生産量であった前年度より単収が増加したため、2.0百万トン増加（2.6%）し、史上最高の80.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、モンスーン到来の遅れによるカリフ（雨期）米の減産見通しから小麦の需要が増加すると見込まれるため前年度より5.3百万トン増加（7.6%）し、76.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の0.1百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン増加し、0.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、4.5百万トン増加（33.4%）し、18.0百万トンとなり、期末在庫率も23.7%（4.6ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の小麦は生育期で、作付面積は2月12日現在で前年同期より0.7%増、平年同期より2.5%増の27.8百万ヘクタールとなっている。

2月に入り、北部産地のウッタープラデシュ州等で生育に適した降雨があった。3月以降の収穫期の天候に注視が必要である。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されたが、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。なお、2009年7月3日に輸出禁止が一旦条件付きで解除されたが、米の減産見通しから7月13日に加工品を除き輸出が再度禁止された。

その後、2009年12月以降、有機小麦やネパール向けの小麦に限定して輸出許可がされた。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、豊作であった前年度と比較して収穫面積は増加するものの一部地域の干ばつ等により単収が減少することから、前年度より2.0百万トン減少（▲3.1%）し、61.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より2.3百万トン増加（5.9%）し、41.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.4百万トン（▲2.1%）減少し、18.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.7百万トン増加（32.0%）し、11.1百万トンとなり、期末在庫率も18.8%（4.1ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫は10月に概ね終了した。ロシア農業省の1月20日の発表では、小麦の収穫量は乾燥調整後ベースで約62百万トンである。シベリア地域では作柄が良好であったが、南ウラル、沿ボルガ地方の一部地域で干ばつの影響等から、豊作であった前年度より単収が減少する見込みである。

2010/11年度の冬小麦の作付けは、11月上旬に終了し、その後、降雪によるスノーカバーの状態に休眠期に入っているが、一部地域で積雪が少なく、凍結等により被害を受けている懸念がある。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2009/10年度 11.9%））

表-7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	75.8	78.6	80.6 (80.6)	-	2.6
消費量	76.4	70.8	76.1 (…)	-	7.6
うち飼料用	0.2	0.1	0.1 (…)	-	0.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	▲ 50.0
輸 入 量	2.0	0.0	0.1 (0.1)	-	900.0
期末在庫量	5.8	13.5	18.0 (…)	-	33.4
期末在庫率	7.6%	19.1%	23.7% (…)	-	4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.00	28.15	27.80 (28.40)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	2.71	2.79	2.90 (2.84)	-	3.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (21 January 2010)」

（世界の生産量シェア4位（2009/10年度 9.1%） 輸出量シェア4位（2009/10年度 14.5%））

表-8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.4	63.7	61.7 (61.5)	-	▲ 3.1
消費量	37.7	38.9	41.2 (40.0)	-	5.9
うち飼料用	15.1	16.2	18.0 (14.2)	-	11.1
輸 出 量	12.6	18.4	18.0 (19.0)	-	▲ 2.1
輸 入 量	0.4	0.2	0.2 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	1.8	8.4	11.1 (11.1)	-	32.0
期末在庫率	3.6%	14.7%	18.8% (18.8%)	-	4.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.40	26.65	28.70 (27.50)	▲ 0.05	7.7
単収(t/ha)	2.02	2.39	2.15 (2.24)	-	▲ 10.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (21 January 2010)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、単収が平年並みに回復するものの、作付期の干ばつにより収穫面積は減少するとの予測から、前年度並の、9.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並の5.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、在庫量が少ないことなどから3.2百万トン減少（▲47.7%）し、3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.6百万トン増加（120.9%）し1.0百万トンとなり、期末在庫率も11.2%（7.5ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、単収及び収穫面積の上方修正により生産量が1.0百万トン上方修正された結果、輸出量が1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦については、一部地域で降雨で遅れたが、1月中旬に概ね終了した。

【貿易情報】

2009年6月に、輸出業者が生産者から政府公示価格で買い上げること等を条件として申告から365日以内に出荷、船積が可能となった。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、アルゼンチンの上院は、8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、3月に引き続き、8月末に再度ストライキを行った。

なお、9月10日には、政府から、小麦650万トンを国内向けに確保し、超過分については、輸出を自由化することと、年産800トン以下の生産者に対して、輸出税を還付する旨の発表が行われた。今後の情勢に注視する必要がある。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、豊作であった前年度と比較して、4～5月の乾燥により単収が低下し、収穫面積が減少すること等から、前年度より5.0百万トン減少（▲19.3%）し、20.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より食料用需要の増加から0.2百万トン増加（1.7%）し、12.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから4.0百万トン減少（▲31.0%）し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.1百万トン（▲3.2%）減少し、3.0百万トンとなるものの、期末在庫率は14.3%（1.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、単収の上方修正により生産量が0.4百万トン上方修正された結果、期末在庫量が0.4百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の冬小麦は、暖かい天候と降雨があったため、作柄が改善され、12月以降、降雪によるスノーカバーが少なかった一部地域を除き、概ね良好な状態で休眠期に入っている。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

(世界の輸出量シェア8位 (2009/10年度 2.8%))

表-9 アルゼンチンの小麦需給 (市場年度: 12月～翌年11月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	18.0	9.0	9.0 (8.0)	1.0	0.0	
消費量	5.1	5.0	5.0 (4.7)	-	0.0	
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0	
輸 出 量	11.2	6.7	3.5 (3.1)	1.0	▲ 47.7	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...	
期末在庫量	3.1	0.4	1.0 (0.6)	-	120.9	
期末在庫率	18.8%	3.7%	11.2% (7.2%)	▲ 1.5	7.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.00	4.55	3.00 (2.80)	0.15	▲ 34.1	
単収(t/ha)	3.00	1.98	3.00 (2.86)	0.19	51.5	

資料: USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、
[Grain: World Markets and Trade]、
[World Agricultural Production]
IGC [Grain Market Report (21 January 2010)]

(世界の輸出量シェア6位 (2009/10年度 7.3%))

表-10 ウクライナの小麦需給 (市場年度: 7月～翌年6月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	13.9	25.9	20.9 (20.9)	0.4	▲ 19.3	
消費量	12.3	11.9	12.1 (12.5)	-	1.7	
うち飼料用	3.0	2.9	2.8 (2.7)	-	▲ 3.4	
輸 出 量	1.2	13.0	9.0 (9.0)	-	▲ 31.0	
輸 入 量	0.3	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9	
期末在庫量	2.1	3.1	3.0 (1.7)	0.4	▲ 3.2	
期末在庫率	15.3%	12.5%	14.3% (8.0%)	1.9	1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.95	7.05	6.75 (6.70)	▲ 0.10	▲ 4.3	
単収(t/ha)	2.34	3.67	3.10 (3.12)	0.11	▲ 15.5	

資料: USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、
[Grain: World Markets and Trade]、
[World Agricultural Production]
IGC [Grain Market Report (21 January 2010)]

3 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要

○2009/10年度のとうもろこし需給（予測）のポイント

とうもろこしの供給面では、中国、EU等で減少するものの、米国、アルゼンチン等で増加が見込まれることから世界の生産量はわずかに増加し史上最高となると見込まれている。

需要面では、米国でエタノール原料用需要を中心とした増加、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下し、需給は引き締まると見込まれている。

【生産量】

生産量は、中国、EUで減少するものの、米国、アルゼンチン等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より6.3百万トン増加（0.8%）し、史上最高の797.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.4百万トン上方修正され、国別にはアルゼンチンで上方修正、EUで下方修正された。

【消費量】

消費量は、EU等で飼料用需要が減少するものの、米国で飼料用需要に加えエタノール原料用需要を中心とした増加、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より34.5百万トン増加（4.4%）し、809.7百万トンとなる見込みである。なお、世界全体の飼料用需要は、EUで減少するものの、米国、中国等では増加することから世界全体では増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.4百万トン上方修正されており、国別には米国で上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量（輸出量）は、前年度より1.5百万トン増加（1.8%）し、84.8百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では貿易量の約6割を占める米国や、ブラジルで輸出量の増加が、インドや南アフリカ、パラグアイで減少が見込まれている。一方、輸入国では、メキシコ、韓国等で輸入量の増加が、エジプト、EUで減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.2百万トン上方修正されており、国別には、輸出国で、アルゼンチンで上方修正、米国で下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから、中国、ブラジル、EU等で在庫が取り崩され、世界全体では前年度より11.9百万トン減少（▲8.1%）し、134.0百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も16.6%（2.3ポイント減）に低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.1百万トン下方修正されており、国別には米国、EUで下方修正、中国で上方修正された。

表－1 世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	791.9	791.5	797.8	1.4	0.8
米国	331.2	307.1	334.1	-	8.8
中国	152.3	165.9	155.0	-	▲6.6
EU-27	47.6	62.7	55.8	▲0.4	▲11.1
ブラジル	58.6	51.0	51.0	-	0.0
メキシコ	23.6	24.2	22.0	-	▲9.2
インド	19.0	19.3	18.5	-	▲4.1
アルゼンチン	22.0	12.6	17.2	2.2	36.5
消費量	771.1	775.2	809.7	3.4	4.4
うち飼料用	496.3	478.4	493.6	1.1	3.2
米国	261.6	259.1	282.3	2.4	9.0
中国	149.0	152.0	159.0	-	4.6
EU-27	64.0	62.0	60.0	-	▲3.2
ブラジル	42.5	44.5	45.5	-	2.2
メキシコ	32.0	32.4	32.2	-	▲0.6
インド	14.2	16.9	17.5	-	3.6
日本	16.6	16.4	16.3	-	▲0.6
貿易量	98.6	83.3	84.8	0.2	1.8
(輸出)					
米国	61.9	47.2	50.8	▲1.3	7.7
ブラジル	7.8	7.0	9.0	-	28.6
アルゼンチン	14.8	9.5	9.5	1.5	0.0
ウクライナ	2.1	5.5	5.0	-	▲9.1
南アフリカ	2.2	2.5	1.5	-	▲40.0
パラグアイ	1.1	1.6	1.0	-	▲37.5
インド	4.5	2.3	1.0	-	▲56.5
(輸入)					
日本	16.6	16.5	16.3	-	▲1.4
メキシコ	9.6	7.8	9.5	-	22.4
韓国	9.3	7.2	7.5	-	4.3
エジプト	4.2	5.0	4.2	-	▲16.0
台湾	4.5	4.6	4.6	-	1.1
コロンビア	3.3	3.2	3.3	-	3.1
EU-27	14.0	2.7	2.5	-	▲8.8
期末在庫量	129.6	145.9	134.0	▲2.1	▲8.1
中国	39.4	53.2	48.8	0.1	▲8.3
米国	41.3	42.5	43.7	▲1.1	2.8
ブラジル	12.6	13.3	10.3	-	▲22.6
EU-27	4.4	6.1	2.8	▲0.4	▲53.2
メキシコ	4.1	3.6	2.8	-	▲21.1
南アフリカ	3.1	3.2	3.0	-	▲5.5
期末在庫率	16.8%	18.8%	16.6%	▲0.3	▲2.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) とうもろこしの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、10月以降の雨がちで低温な天候や11月以降の降雪から収穫が遅れたが、生育期が生育に適した天候で推移したことから前年度より27.0百万トン増(8.8%)の史上最高の334.1百万トンの見込みである。単収も史上最高の10.37トン/ヘクタールである。

消費量は、豊作見通しによるとうもろこしの供給量の増加から飼料用需要の増加が見込まれ、再生可能燃料基準(RFS)によるバイオ燃料の義務付け使用量の増加や、最近のとうもろこし価格の低下とエタノール価格の上昇によるエタノール製造業者のとうもろこしのブレンド意欲の向上などを反映してエタノール原料用需要の増加も見込まれることから、前年度より23.2百万トン増加(9.0%)し、282.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、米国のとうもろこしの増産や世界のとうもろこしの需要やそれに伴う輸入が回復すると見込まれることから、前年度より3.6百万トン増加(7.7%)し、50.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量と輸出量の計を上回ることから前年度より1.2百万トン増加(2.8%)し、43.7百万トンとなるが、期末在庫率は、13.1%(0.8ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量がエタノール用需要の上方修正から2.4百万トン上方修正され、輸出量がアルゼンチンとの輸出競争の激化から1.3百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が1.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国のとうもろこしの主要18州は、2009年12月に入りようやく収穫が終盤を迎え、12月20日現在、収穫率は95%で、概ね5%が未収穫のまま越年し、降雪の合間を縫って収穫が行われているとみられる。

10月に入り、中西部において低温で雨がちな天候となり11月には降雪があったため、収穫が大幅に遅れている。雨がちな天候や降雪により水分過多となり品質低下や収穫ロス懸念がある。

なお、今回の史上最高となった334.1百万トンの生産量見込みには、1月時点で未収穫のとうもろこしが含まれており、米国農務省が再調査を行った上で、2010年3月に生産見通しを公表する予定である。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2008年数量ベース 98.9%)
世界の生産量シェア 1位 (2009/10年度 41.9%)
輸出量シェア 1位 (2009/10年度 59.9%)

表-2 米国のとうもろこし需給(市場年度: 9月~翌年8月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	331.2	307.1	334.1	-	8.8
消費量	261.6	259.1	282.3	2.4	9.0
うち飼料用	150.2	133.2	141.0	-	5.8
エタノール用	77.4	93.4	109.2	2.5	16.9
輸 出 量	61.9	47.2	50.8	▲ 1.3	7.7
輸 入 量	0.5	0.3	0.3	-	▲ 26.5
期末在庫量	41.3	42.5	43.7	▲ 1.1	2.8
期末在庫率	12.8%	13.9%	13.1%	▲ 0.4	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.01	31.80	32.23	-	1.4
単収(t/ha)	9.46	9.66	10.37	-	7.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

○ 米国とうもろこしの生育進捗状況及び作柄

[生育進捗状況] (主要18州 2009年12月20日現在)

収穫率 95%

		単位: %				
		優良	良	普通	不良	極不良
とうもろこし	2009/10	19	48	23	7	3
	前年度同時期	-	-	-	-	-
	前年度最終	17	47	25	8	3

注: 優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

イ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、収穫面積は増加するものの、前年度の記録的な豊作に比べ東北地方の干ばつ等から単収は低下すると予想されることから前年度より10.9百万トン減少（▲6.6%）し、155.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、食肉需要が堅調なことから飼料用需要を中心に前年度より7.0百万トン増加（4.6%）し、159.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.3百万トン増加（194.1%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並の0.1百万トンの見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より4.4百万トン減少（▲8.3%）し、48.8百万トンとなり、期末在庫率は30.6%（4.4ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、輸入量が0.1百万トン上方修正されたため、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度は、2009年10月中旬に概ね収穫が終了した。主要産地の東北地方の吉林省等での7月後半から8月中旬にかけての干ばつの影響が大きく、大幅な単収の低下による生産量の減少が見込まれる。

2010/11年度は、例年、4月頃から作付けが開始される見込みである。

【貿易情報等】

中国については、2007年12月に増値税の輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を課していたが、2008年12月1日からとうもろこしの輸出税は撤廃されている。

なお、2008年度は、豊作により新穀が市場に大量に出回ったことから、中国政府は4度の買上げ（計40.0百万トン計画）を行い、4月末までに備蓄を終了した。なお、備蓄については2009年7月下旬から放出を開始しており、中国全体で2010年2月9日までに約49.4百万トンの競売（再競売含む）が行われ、約16.9百万トンが落札された。2009年12月以降、東北地区での競売は休止されており、需要の多い華中・華南地区のみ継続されている。

なお、2009年産とうもろこしについても、最低買上価格を定め、備蓄向けの買上げを行うことが発表されている。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 19.4%））

表-3 中国のとうもろこし需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	152.3	165.9	155.0 (154.0)	-	▲ 6.6
消費量	149.0	152.0	159.0 (160.0)	-	4.6
うち飼料用	105.0	110.0	116.0 (110.0)	-	5.5
輸 出 量	0.6	0.2	0.5 (0.5)	-	194.1
輸 入 量	0.0	0.1	0.1 (0.2)	0.1	100.0
期末在庫量	39.4	53.2	48.8 (53.4)	0.1	▲ 8.3
期末在庫率	26.3%	34.9%	30.6% (33.3%)	0.0	▲ 4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.48	29.86	30.00 (…)	-	0.5
単収(t/ha)	5.17	5.56	5.17 (…)	-	▲ 7.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (21 January 2010)」

ウ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、収穫面積は減少するものの、前年度に主要生産地域で干ばつの影響を受け低下した単収が、本年度は生育に適した降雨により向上すると見込まれることから、前年度より4.6百万トン増加（36.5%）し、17.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加に伴い前年度より2.1百万トン増加（42.0%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の9.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.6百万トン増加（300.0%）し、0.8百万トンとなり、期末在庫率は前年度より3.6ポイント上昇し5.1%となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の輸出量が1.0百万トン上方修正、消費量が0.8百万トン下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.2百万トン下方修正された。また、2009/10年度は、収穫面積の上方修正に加え、2009年12月以降の生育に適した降雨による単収の上方修正により、2.2百万トン上方修正され、消費量が1.2百万トン、輸出量が1.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.7百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の作付けは、降雨のため遅れた地域があったが、概ね1月中旬に終了した。2009年の12月末以降、ほぼ全域に生育に適した降雨があり、2月18日現在、主産地のブエノスアイレス州やコルドバ州における作柄は概ね優良から良となっており、生育状況は良好である。

【貿易情報】

2009年6月には輸出業者が、生産者から政府公示価格での買い上げること等を条件として申告から365日以内に出荷、船積が可能となった。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、アルゼンチンの上院は、8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、3月に引き続き8月末に再度ストライキを行った。

なお、9月10日には、政府から、とうもろこし800万トンを国内向けに確保し、超過分については輸出を自由化することと、年産1,200トン以下の生産者に対して、輸出税を還付する旨の発表が行われた。今後の情勢に注視する必要がある。

（我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース 0.5%）
世界の輸出量シェア 2位（2009/10年度 11.2%））

表-4 アルゼンチンのとうもろこし需給
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	22.0	12.6	17.2 (15.0)	2.2	36.5	
消費量	7.0	5.0	7.1 (6.4)	1.2	42.0	
うち飼料用	5.1	3.1	5.2 (4.6)	1.2	67.7	
輸 出 量	14.8	9.5	9.5 (8.5)	1.5	0.0	
輸 入 量	0.1	0.1	0.0 (0.0)	-	...	
期末在庫量	2.0	0.2	0.8 (0.5)	▲ 0.7	300.0	
期末在庫率	9.1%	1.4%	5.1% (3.6%)	▲ 6.0	3.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	3.41	2.25	2.15 (...)	0.15	▲ 4.4	
単収(t/ha)	6.45	5.60	8.00 (...)	0.50	42.9	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

エ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、収穫面積は減少するものの、前年度に南部の主要生産地域で干ばつの影響を受け低下した単収が、本年度は十分な降雨により回復すると見込まれることから、前年度並の51.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より1.0百万トン増加(2.2%)し、45.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.0百万トン増加(28.6%)し、9.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.7百万トン減少(▲58.3%)し、0.5百万トンとなる見込まれている。

この結果、期末在庫量は、前年度より3.0百万トン減少し(▲22.6%)、10.3百万トンとなり、期末在庫率も18.9%(6.9ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の夏とうもろこしの作付けは、12月上旬には概ね終了した。マトグロッソドスル、パラナ、サンパウロ州等では、降雨が多いため播種が遅れたものの、その後の降雨により生育に好ましい状態で推移している。2009/10年度の早期大豆の収穫後に、冬とうもろこしの作付けが開始された。

オ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、とうもろこし価格の低下と生産コストの上昇による採算の悪化懸念から面積の減少が見込まれ、単収も天候に恵まれた前年度の高単収に比べ減少すると見込まれることから、前年度より6.9百万トン減少(▲11.1%)し、55.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要が減少することから前年度より2.0百万トン減少(▲3.2%)し、60.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.2百万トン減少(▲13.8%)し、1.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.2百万トン減少(▲8.8%)し、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから前年度より3.2百万トン減少(▲53.2%)し、2.8百万トンとなり、期末在庫率も4.6%(4.9ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の実績がわずかに上方修正、輸入量及び輸出量がわずかに下方修正されたことから、2009/10年度の期首在庫量がわずかに下方修正された。また、2009/10年度の単収が上方修正されたものの収穫面積が下方修正されたことから、生産量が0.4百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.4百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009年/10年産は9月から10月にかけて収穫が概ね終了した。2010/11年度の作付けは主産地のフランス等で例年4月頃行われる見込みである。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

(世界の生産量シェア4位(2009/10年度 6.4%)
輸出量シェア3位(2009/10年度 10.6%))

表-5 ブラジルのとうもろこし需給

(市場年度: 翌年3月~翌々年2月)

(単位: 百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(CONAB)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	58.6	51.0	51.0 (51.4)	-	0.0
消費量	42.5	44.5	45.5 (46.0)	-	2.2
うち飼料用	36.0	37.0	38.5 (…)	-	4.1
輸出量	7.8	7.0	9.0 (8.0)	-	28.6
輸入量	0.7	1.2	0.5 (0.8)	-	▲58.3
期末在庫量	12.6	13.3	10.3 (9.1)	-	▲22.6
期末在庫率	25.0%	25.8%	18.9% (16.9%)	-	▲6.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.70	14.10	13.30 (12.89)	-	▲5.7
単収(t/ha)	3.99	3.62	3.83 (3.98)	-	5.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」

「World Agricultural Production」

CONAB 「Acompanhamento da Safra Brasileira de Graos」 (9 February 2010)

(世界の生産量シェア3位(2009/10年度 7.0%))

表-6 EU-27のとうもろこし需給(市場年度: 10月~翌年9月)

(単位: 百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.6	62.7	55.8 (56.6)	▲0.4	▲11.1
消費量	64.0	62.0	60.0 (59.6)	-	▲3.2
うち飼料用	51.0	47.5	45.0 (44.0)	-	▲5.3
輸出量	0.6	1.7	1.5 (0.9)	-	▲13.8
輸入量	14.0	2.7	2.5 (2.8)	-	▲8.8
期末在庫量	4.4	6.1	2.8 (4.9)	▲0.4	▲53.2
期末在庫率	6.8%	9.5%	4.6% (8.1%)	▲0.6	▲4.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.44	8.86	8.39 (…)	▲0.13	▲5.3
単収(t/ha)	5.63	7.08	6.65 (…)	0.06	▲6.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」

「World Agricultural Production」

IGC 「Grain Market Report (21 January 2010)」

4 大麦

(1) 国際的な大麦需給の概要

○2009/10年度の大麦需給（予測）のポイント

大麦の供給面では、豊作であった前年度に比べて単収が低下することから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、飼料用需要およびその他需要が増加すると見込みから、消費量の増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから期末在庫量が増加すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、収穫面積の増加が見込まれるものの、好天に恵まれた昨年度と比較して、単収が低下すると見通しから、豪州等で増産となるものの、ロシア、EU、カナダ、ウクライナ等の主要生産国で減産が見込まれ、世界全体では前年度より5.1百万トン減少(▲3.3%)し、148.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン下方修正され、ウクライナ、ロシアで下方修正、EUでわずかに上方修正された。

【消費量】

消費量は、カナダ、米国等で減少するものの、飼料用需要を中心にEU、サウジアラビア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より2.4百万トン増加(1.7%)し、146.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で1.0百万トン下方修正されており、国別にはウクライナ、トルコで下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、2.9百万トン減少(▲14.7%)し、17.1百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では、豪州、カザフスタン等で増加が見込まれるものの、EU、ロシア等では減少が見込まれている。輸入国では、サウジアラビア等で増加、イランやシリア等で減少が見込まれている。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で0.3百万トン下方修正された。輸出国については、EU、カザフスタンで下方修正、輸入国についてはイランで下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、世界全体で生産量が消費量を上回り、ロシア、ウクライナ、カナダ等で減少するものの、EU、米国、豪州で増加し、世界全体では前年度より2.7百万トン増加(9.0%)し、32.4百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は22.2%(1.5ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で1.1百万トン上方修正されており、国別には、EU、豪州、ウクライナで上方修正され、ロシアで下方修正された。

表－1 世界の大麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	132.7	154.0	148.9	▲ 0.3	▲ 3.3
EU-27	57.5	65.5	62.0	0.0	▲ 5.3
ロシア	15.7	23.1	17.9	▲ 0.1	▲ 22.5
カナダ	11.0	11.8	9.5	-	▲ 19.2
ウクライナ	6.0	12.6	11.8	▲ 0.2	▲ 6.3
豪州	7.2	7.7	8.3	-	8.2
トルコ	6.0	5.6	6.0	-	7.1
米国	4.6	5.2	4.9	-	▲ 5.4
消費量	133.9	143.8	146.2	▲ 1.0	1.7
うち飼料用	91.7	100.1	101.8	▲ 0.9	1.7
EU-27	54.2	57.5	59.0	-	2.6
ロシア	15.1	17.1	17.1	-	0.0
カナダ	7.9	9.1	8.5	-	▲ 6.8
サウジアラビア	7.4	7.7	7.9	-	2.6
トルコ	6.1	5.7	5.7	▲ 0.2	0.0
ウクライナ	4.9	6.0	6.1	▲ 0.3	1.7
米国	4.3	5.1	4.8	-	▲ 6.6
貿易量	15.5	20.0	17.1	▲ 0.3	▲ 14.7
(輸出)					
ウクライナ	1.0	6.4	6.0	-	▲ 5.8
豪州	3.4	3.2	3.8	-	17.5
EU-27	3.8	3.6	1.5	▲ 0.5	▲ 58.3
カナダ	3.0	1.5	1.5	-	1.1
ロシア	1.0	3.4	2.2	-	▲ 36.1
アルゼンチン	0.9	1.0	0.9	-	▲ 11.6
カザフスタン	0.8	0.3	0.5	▲ 0.2	71.8
(輸入)					
サウジアラビア	7.4	7.6	8.0	-	5.3
日本	1.4	1.3	1.4	-	4.0
中国	1.1	1.6	1.5	-	▲ 3.3
イラン	0.3	1.9	0.8	▲ 0.2	▲ 57.9
シリア	0.2	1.8	1.0	-	▲ 42.9
チュニジア	0.6	0.4	0.3	-	▲ 18.0
モロッコ	0.3	0.3	0.1	-	▲ 69.5
期末在庫量	19.6	29.7	32.4	1.1	9.0
EU-27	5.7	10.4	12.0	0.5	15.8
カナダ	1.6	2.8	2.5	-	▲ 13.4
豪州	1.7	2.5	2.9	0.1	16.0
ロシア	1.0	3.6	2.3	▲ 0.2	▲ 37.1
サウジアラビア	2.4	2.3	2.4	-	3.0
米国	1.5	1.9	2.5	-	30.8
ウクライナ	0.8	1.1	0.8	0.1	▲ 27.9
期末在庫率	14.6%	20.7%	22.2%	0.9	1.5

資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 大麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、収穫面積は前年度より減少するが、2年連続で単収が増加するため、生産量は前年度より0.6百万トン増加(8.2%)し、8.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用向け需要の増加により、前年度より0.5百万トン増加(13.9%)し、4.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.6百万トン増加(17.5%)し、3.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン増加(16.0%)し、2.9百万トンとなる見込みである。また、期末在庫率は36.7%(0.1ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の消費量が0.1百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.1百万トン下方修正された。また、2009/10年度の消費量が0.2百万トン下方修正された。この結果、期末在庫が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度については、収穫は1月に終了した。クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州は、生育期の降雨が少なかったため、前年度より生産量は減少するが、豪州南東部では生育期に適した降雨があったため、生産量が増加する見込みである。なお、西豪州及び豪州南東部では降雨により収穫が遅れた。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年より減少し、豊作であった前年に比べ産地の乾燥等により単収が低下することから、前年度より2.3百万トン減少(▲19.2%)し、9.5百万トンとなると見込まれている。

消費量は、生産量の減少から前年度より0.6百万トン減少(▲6.8%)し、8.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は前年度並の1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.3百万トン減少(▲13.4%)し、2.5百万トンとなり、期末在庫率は24.8%(2.2ポイント減)と低下すると見込まれている。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の収穫は、平原三州で11月中旬に概ね終了した。生育期の産地の乾燥等のため、豊作であった前年よりは単収が減少する見込みである。

2010/11年度は、例年、5月頃作付けが開始されるとみられる。なお、カナダ統計局の1月の公表資料によれば、2010/11年度の大麦の作付面積は2009/10年度より3%程度減少すると見込まれている。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2008年数量ベース44.5%)
世界の生産量シェア 5位 (2009/10年度 5.6%)
輸出量シェア 2位 (2009/10年度 22.2%)

表-2 豪州の大麦需給(市場年度:11月~翌年10月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.2	7.7	8.3 (8.0)	-	8.2
消費量	3.1	3.6	4.1 (2.6)	▲ 0.2	13.9
うち飼料用	2.1	2.6	3.0 (2.2)	▲ 0.2	15.4
輸出量	3.4	3.2	3.8 (4.0)	-	17.5
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...
期末在庫量	1.7	2.5	2.9 (...)	0.1	16.0
期末在庫率	25.6%	36.5%	36.7% (...)	0.0	0.1

(参考)

収穫面積(百万ha)※	4.90	4.79	4.50 (4.48)	-	▲ 6.1
単収(t/ha)	1.46	1.60	1.84 (1.80)	-	15.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE「Australian crop report (16 February 2010)」(※ABAREは作付面積)

我が国の輸入先国シェア 3位 (2008年数量ベース21.9%)
世界の生産量シェア 4位 (2009/10年度 6.4%)
輸出量シェア 4位 (2009/10年度 8.8%)

表-3 カナダの大麦需給(市場年度:8月~翌年7月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	11.0	11.8	9.5 (9.5)	-	▲ 19.2
消費量	7.9	9.1	8.5 (7.9)	-	▲ 6.8
うち飼料用	6.6	7.7	7.1 (7.4)	-	▲ 8.0
輸出量	3.0	1.5	1.5 (2.3)	-	1.1
輸入量	0.1	0.0	0.1 (0.0)	-	19.0
期末在庫量	1.6	2.8	2.5 (2.2)	-	▲ 13.4
期末在庫率	14.3%	27.0%	24.8% (27.0%)	-	▲ 2.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	4.00	3.50	2.92 (2.92)	-	▲ 16.6
単収(t/ha)	2.75	3.36	3.26 (3.26)	-	▲ 3.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC「Grains and Oilseeds Outlook (28 January 2010)」

ウ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、単収は前年度より増加するものの、収穫面積が減少することから前年度より0.3百万トン減少（▲5.4%）し、4.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少により、前年度より0.3百万トン減少（▲6.6%）し、4.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.2百万トン（▲62.2%）減少し、0.1百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン（▲13.9%）減少し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.6百万トン増加（30.8%）して2.5百万トンとなり、期末在庫率は51.6%（15.9ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の収穫は、9月に概ね終了した。

2010/11年度の作付けは、例年4月から5月にかけて行われるとみられる。

（我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース32.1%）
世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 3.3%））

表－4 米国の大麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	4.6	5.2	4.9	-	▲ 5.4
消費量	4.3	5.1	4.8	-	▲ 6.6
うち飼料用	0.7	1.4	1.1	-	▲ 24.8
輸 出 量	0.9	0.3	0.1	-	▲ 62.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.5	-	▲ 13.9
期末在庫量	1.5	1.9	2.5	-	30.8
期末在庫率	28.4%	35.7%	51.6%	-	15.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.42	1.53	1.26	-	▲ 17.6
単収(t/ha)	3.23	3.42	3.93	-	14.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、豊作であった前年度と比較して、スペインや東欧等の乾燥により単収が前年度より低下することと、収穫面積が減少するため、前年度より3.5百万トン減少(▲5.3%)し、62.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増大により、前年度より1.5百万トン増加(2.6%)し、59.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.1百万トン減少(▲58.3%)し、1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より1.6百万トン増加(15.8%)し12.0百万トンとなり、期末在庫率は19.8%(2.9ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、収穫面積の上方修正により生産量がわずかに上方修正され、輸出量が0.5百万トン下方修正されたため、期末在庫量が0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の冬大麦の作付けは、10月中に概ね終了した。作付面積は減少する見込みである。12月以降、EU東部で降雪が多く、スノーカバーの状態が保たれており、概ね良好な状態で休眠期に入っている。

【貿易情報】

穀物の輸入関税を2008年1月より停止していたが、2008年10年に再導入した。

オ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、天候に恵まれ豊作であった前年度と比較して、収穫面積は増加するものの、雨が少なかったことから単収が低下すると見込まれ、前年度より0.8百万トン減少(▲6.3%)し、11.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加(1.7%)し、6.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少を受け、前年度より0.4百万トン減少(▲5.8%)し、6.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.3百万トン減少(▲27.9%)し、0.8百万トンとなり、期末在庫率は6.3%(2.2ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、生産量が0.2百万トン下方修正され、消費量が0.3百万トン下方修正されたため、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の冬大麦の作付けが11月には概ね終了した。11月中旬の暖かい天候と降雨により生育条件が改善され、12月以降、積雪によるスノーカバーが少なかった一部地域を除き、概ね好条件で休眠期に入っている。

【貿易情報】

輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

〔世界の生産量シェア 1位(2009/10年度 41.6%)〕
〔輸出量シェア 4位(2009/10年度 8.8%)〕

表-5 EU-27の大麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	57.5	65.5	62.0 (61.7)	0.0	▲ 5.3
消費量	54.2	57.5	59.0 (55.4)	-	2.6
うち飼料用	38.7	41.5	43.0 (42.4)	-	3.6
輸出量	3.8	3.6	1.5 (4.4)	▲ 0.5	▲ 58.3
輸入量	0.3	0.3	0.2 (0.3)	-	▲ 49.8
期末在庫量	5.7	10.4	12.0 (13.6)	0.5	15.8
期末在庫率	9.8%	17.0%	19.8% (22.8%)	1.0	2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.80	14.57	14.06 (...)	0.01	▲ 3.5
単収(t/ha)	4.17	4.49	4.41 (...)	-	▲ 1.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

〔世界の生産量シェア 3位(2009/10年度 7.9%)〕
〔輸出量シェア 1位(2009/10年度 35.1%)〕

表-6 ウクライナの大麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.0	12.6	11.8 (11.8)	▲ 0.2	▲ 6.3
消費量	4.9	6.0	6.1 (6.5)	▲ 0.3	1.7
うち飼料用	3.3	4.3	4.4 (4.8)	▲ 0.3	2.3
輸出量	1.0	6.4	6.0 (5.2)	-	▲ 5.8
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	25.0
期末在庫量	0.8	1.1	0.8 (1.6)	0.1	▲ 27.9
期末在庫率	13.9%	8.5%	6.3% (13.7%)	0.5	▲ 2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.10	4.15	5.00 (...)	-	20.5
単収(t/ha)	1.46	3.04	2.36 (...)	▲ 0.04	▲ 22.4

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

カ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、前年度より5.2百万トン減少（▲22.5%）し、17.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並みの17.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少を受け、前年度より1.2百万トン減少（▲36.1%）し、2.2百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並みの0.1百万トンとなる見込みである。

期末在庫量は、1.3百万トン減少（▲37.1%）し2.3百万トンとなり、期末在庫率は11.8%（5.9ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、ロシア政府の統計データの下方修正により生産量が0.1百万トン下方修正され、輸入量が0.1百万トン下方修正されたことから、期末在庫量が0.2百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の収穫は10月に概ね終了した。

シベリアで天候に恵まれ単収が増加したが、南ウラルや沿ボルガ地域の一部での干ばつの影響等から、豊作であった前年度より単収が減少する見込みである。

2010/11年度の冬大麦の作付けは、11月上旬に終了し、その後、概ね生育に適した天候で推移し、12月以降、降雪によるスノーカバーの状態が休眠期に入っているが、一部地域で積雪が少なく、凍結等により被害を受けている懸念がある。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 12.0%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 12.9%））

表－7 ロシアの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.7	23.1	17.9 (17.9)	▲ 0.1	▲ 22.5
消費量	15.1	17.1	17.1 (17.4)	-	0.0
うち飼料用	10.5	12.3	12.4 (12.4)	-	0.8
輸出量	1.0	3.4	2.2 (2.4)	-	▲ 36.1
輸入量	0.2	0.1	0.1 (0.2)	▲ 0.1	▲ 10.7
期末在庫量	1.0	3.6	2.3 (2.7)	▲ 0.2	▲ 37.1
期末在庫率	6.4%	17.7%	11.8% (13.4%)	▲ 0.8	▲ 5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.60	9.60	9.05 (…)	▲ 0.05	▲ 5.7
単収(t/ha)	1.63	2.41	1.98 (…)	-	▲ 17.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (21 January 2010)」

5 ソルガム

(1) 国際的なソルガム需給の概要

○2009/10年度のソルガム需給（予測）のポイント

ソルガムの供給面では、アルゼンチン、ナイジェリア等で増加するものの、米国、インドで減少することから世界の生産量は減少が見込まれている。

需要面では、ナイジェリア、メキシコ等で増加するが、米国、インドで減少することから、世界の消費量は減少が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから減少し、期末在庫率は低下すると見込まれている。

【生産量】

生産量は、アルゼンチン、ナイジェリア等で増加するものの、米国、インドで減少することから世界全体では前年度より2.2百万トン減少（▲3.4%）し、62.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【消費量】

消費量は、ナイジェリア、メキシコ等で増加するものの、米国、インド等で減少することから、世界全体では前年度より2.1百万トン減少（▲3.2%）し、62.6百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.4百万トン上方修正され、国別にはメキシコ、エチオピアで上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より0.2百万トン減少（▲3.4%）し、6.0百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では豪州等で輸出量が減少するものの、ブラジル等で増加が見込まれている。一方、輸入国では、EUで輸入量が減少するものの、メキシコで増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、輸入国でメキシコ、日本が上方修正、EUが下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから世界全体では前年度より0.2百万トン減少（▲5.0%）し、5.0百万トンとなり、期末在庫率は7.9%（0.1ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.2百万トン上方修正されており、国別にはスーダンで上方修正、エチオピア等で下方修正された。

表－1 世界のソルガム需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	66.3	64.5	62.3	-	▲ 3.4
ナイジェリア	10.0	11.0	11.5	-	4.5
米国	12.6	12.0	9.7	-	▲ 18.9
インド	7.9	7.3	6.0	-	▲ 17.9
メキシコ	6.2	6.3	6.4	-	1.6
スーダン	4.5	4.7	4.7	-	0.0
アルゼンチン	2.9	1.7	3.3	-	98.8
エチオピア	2.7	2.6	2.6	-	▲ 0.7
消費量	65.3	64.7	62.6	0.4	▲ 3.2
うち飼料用	29.4	26.3	25.3	0.4	▲ 3.8
ナイジェリア	10.0	11.0	11.5	-	4.6
メキシコ	7.2	8.6	9.2	0.1	7.0
インド	7.9	7.2	6.1	-	▲ 15.3
米国	5.1	8.3	6.1	-	▲ 26.6
スーダン	5.0	5.0	5.0	-	0.0
エチオピア	2.6	2.7	2.8	0.1	3.7
EU-27	6.3	0.9	0.7	-	▲ 22.1
貿易量	9.7	6.2	6.0	0.0	▲ 3.4
(輸出)					
米国	7.0	3.6	3.6	-	▲ 2.4
アルゼンチン	1.2	1.1	1.0	-	▲ 9.1
豪州	0.8	1.2	1.0	-	▲ 16.7
ブラジル	0.1	0.0	0.1	-	...
中国	0.2	0.0	0.1	-	56.3
ナイジェリア	0.1	0.1	0.1	-	0.0
インド	0.1	0.1	0.0	-	▲ 50.0
(輸入)					
メキシコ	1.2	2.5	2.7	0.1	8.2
日本	1.1	1.6	1.6	0.1	▲ 1.8
EU-27	5.8	0.4	0.1	▲ 0.1	▲ 72.1
スーダン	0.3	0.3	0.3	-	0.0
チリ	0.4	0.4	0.4	-	▲ 6.3
イスラエル	0.1	0.1	0.1	-	5.6
ニジェール	0.1	0.1	0.1	-	0.0
期末在庫量	5.3	5.2	5.0	0.2	▲ 5.0
米国	1.3	1.4	1.5	-	5.5
メキシコ	0.4	0.6	0.5	-	▲ 17.6
スーダン	0.7	0.7	0.6	0.1	▲ 14.5
ナイジェリア	0.2	0.2	0.2	-	0.0
エチオピア	0.2	0.2	0.1	▲ 0.1	▲ 42.0
インド	0.2	0.2	0.1	▲ 0.0	▲ 51.4
アルゼンチン	0.2	0.1	0.7	▲ 0.0	1071.4
期末在庫率	8.2%	8.1%	7.9%	0.3	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) ソルガムの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、単収が増加するものの、収穫面積が大きく減少することが見込まれていることから前年度より2.3百万トン減少（▲18.9%）し、9.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少に加え、エタノール原料用需要も減少が見込まれることから前年度より2.2百万トン減少（▲26.6%）し、6.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の3.6百万トンとなる見込みである。

この結果、生産量が消費量と輸出量の計を上回ることから期末在庫量は前年度を0.1百万トン上回る1.5百万トンとなり（5.5%）、期末在庫率は15.2%（3.6ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の収穫は、主要11州では平年より遅れて12月上旬に概ね終了した。

（我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース 46.5%）
世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 15.6%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 59.6%）

表－2 米国のソルガム需給（市場年度：9月～翌年8月）

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	12.6	12.0	9.7	-	▲ 18.9
消費量	5.1	8.3	6.1	-	▲ 26.6
うち飼料用	4.2	5.9	3.8	-	▲ 35.4
輸出量	7.0	3.6	3.6	-	▲ 2.4
輸入量	0.0	0.0	0.0	-	▲ 100.0
期末在庫量	1.3	1.4	1.5	-	5.5
期末在庫率	11.1%	11.6%	15.2%	-	3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.75	2.94	2.23	-	▲ 24.1
単収(t/ha)	4.60	4.08	4.35	-	6.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

イ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、前年度の干ばつの影響により、作付けが見送られたり収穫不能となって減少した収穫面積が2007/08年度と同水準まで回復すること、主要生産地域で低下した単収が回復すると見込まれることから、前年度より1.6百万トン増加（98.8%）し、3.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加から前年度より1.0百万トン増加（142.9%）し、1.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン減少（▲9.1%）し、1.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.6百万トン増加し（1071.4%）、0.7百万トンとなり、期末在庫率は24.3%（21.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の消費量が0.2百万トン下方修正、輸入量がわずかに上方修正、輸出量が0.2百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量がわずかに下方修正された。この結果、2009/10年度の期末在庫量がわずかに下方修正されたい。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の作付けの進捗は、降雨による遅れもあったが、2010年2月18日現在、アルゼンチン全体で93%と概ね終了した。生育に適した降雨があるため単収が上昇するとともに、収穫面積も前年度より大きく増加する見通しである。

ウ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、収穫面積が減少することから前年度より0.1百万トン減少（▲5.6%）し、1.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン減少（▲7.5%）し、1.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（56.3%）し、0.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.2百万トン減少し（▲44.2%）、0.2百万トンとなり、期末在庫率も12.3%（8.3ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の収穫が概ね終了したが、主産地の東北地区で、2009年7月末以降の高温乾燥による単収の減少懸念がある。

【貿易情報】

中国については、2007年12月に増値税の輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を課していたが、2008年12月1日からは、ソルガムの輸出税は撤廃されている。

（世界の輸出货量シェア 2位（2009/10年度 16.8%））

表-3 アルゼンチンのソルガム需給

（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

（単位：百万トン）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.9	1.7	3.3 (3.3)	-	98.8
消費量	1.7	0.7	1.7 (2.6)	-	142.9
うち飼料用	1.5	0.6	1.5 (2.3)	-	150.0
輸出货量	1.2	1.1	1.0 (0.7)	-	▲ 9.1
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	…
期末在庫量	0.2	0.1	0.7 (0.1)	▲ 0.0	1071.4
期末在庫率	6.7%	3.1%	24.3% (1.5%)	▲ 1.8	21.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.62	0.45	0.70 (…)	-	55.6
単収(t/ha)	4.74	3.69	4.71 (…)	-	27.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2008年数量ベース 10.3%）
世界の輸出货量シェア 6位（2009/10年度 0.8%）

表-4 中国のソルガム需給（市場年度：10月～翌年9月）

（単位：百万トン）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1.9	1.8	1.7 (1.7)	-	▲ 5.6
消費量	2.0	2.0	1.9 (…)	-	▲ 7.5
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 50.0
輸出货量	0.2	0.0	0.1 (0.1)	-	56.3
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
期末在庫量	0.6	0.4	0.2 (…)	-	▲ 44.2
期末在庫率	28.7%	20.6%	12.3% (…)	-	▲ 8.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.50	0.45	0.43 (…)	-	▲ 4.4
単収(t/ha)	3.84	4.00	3.98 (…)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

エ 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、単収および収穫面積が減少すると見込まれることから、前年度より0.8百万トン減少(▲30.7%)し、1.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.4百万トン減少(▲24.9%)し、1.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.2百万トン減少(▲16.7%)し、1.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.4百万トン減少し0.3百万トン(▲54.0%)となり、期末在庫率は13.7%(9.7ポイント減)と低下すると見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の実産量が0.7百万トン上方修正され、2008/09年度の実消費量が0.2百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.5百万トン上方修正された。また、2009/10年度において、飼料用需要の上方修正により消費量が0.3百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.2百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の作付けは、主産地のニューサウスウェールズ州北部とクイーンズランド州南部で作付け時期の後期にあたる12月末の降雨で進展したものの、作付け初期の降雨が少なかったことから面積は大きく減少する見込みである。今後の生育期の天候に留意する必要がある。

オ インド

【需給状況】

インドの実産量は、収穫面積は増加するものの単収の減少が見込まれることから、前年度より1.3百万トン減少(▲17.9%)し、6.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、減産に伴い、前年度より1.1百万トン減少(▲15.3%)し、6.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.1百万トン減少(▲51.4%)し、0.1百万トンとなり、期末在庫率は1.9%(1.4ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の実輸出量がわずかに上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量がわずかに下方修正された。この結果、期末在庫量がわずかに下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度のカリフ期(雨期)のソルガムは、2009年11月中旬に概ね収穫が終了した。前年同期よりモンスーンの遅れにより単収が低下するため、生産量は前年同期の312万トンから255万トンに減少する見込みである。

2010/11年度のラビ期(乾期)のソルガムは生育期である。作付面積は2010年2月12日現在、455万ヘクタールで前年同期より7.7%、平年同期より4.2%減少している。

(我が国の輸入先国シェア2位(2008年数量ベース 35.4%)
世界の輸出量シェア 2位(2009/10年度 16.8%))

表-5 豪州のソルガム需給

(市場年度:翌年3月~翌々年2月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.8	2.7	1.9 (1.3)	-	▲30.7
消費量	2.2	1.6	1.2 (0.7)	0.3	▲24.9
うち飼料用	2.2	1.6	1.2 (0.7)	0.3	▲25.0
輸出量	0.8	1.2	1.0 (0.6)	-	▲16.7
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...
期末在庫量	0.8	0.7	0.3 (...)	0.2	▲54.0
期末在庫率	26.2%	23.4%	13.7% (...)	9.3	▲9.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.94	0.75	0.63 (0.43)	-	▲16.0
単収(t/ha)	4.02	3.54	2.94 (2.93)	-	▲16.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain:World Markets and Trade」

「World Agricultural Production」

ABARE「Australian crop report (16 February 2010)」(※ABAREは作付面積)

(世界の生産量シェア4位(2009/10年度 9.6%))

表-6 インドのソルガム需給(市場年度:11月~翌年10月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.9	7.3	6.0 (6.0)	-	▲17.9
消費量	7.9	7.2	6.1 (...)	-	▲15.3
うち飼料用	1.5	1.2	1.5 (...)	-	25.0
輸出量	0.1	0.1	0.0 (...)	-	▲50.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...
期末在庫量	0.2	0.2	0.1 (...)	▲0.0	▲51.4
期末在庫率	2.3%	3.4%	1.9% (...)	▲0.1	▲1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.93	7.70	7.80 (...)	-	1.3
単収(t/ha)	1.00	0.95	0.77 (...)	-	▲18.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain:World Markets and Trade」

「World Agricultural Production」

IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

6 米

(1) 国際的な米需給の概要

○2009/10年度の米需給（予測）のポイント

米の供給面では、中国、インドネシア、タイで増加が見込まれるものの、インド、バングラデシュ、フィリピン、ベトナムで減少することから、世界の生産量は減産が見込まれている。

需要面では、インドで減少するものの、中国、インドネシア、ミャンマー、ベトナム、バングラデシュ、フィリピンで消費量が拡大することから世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、中国、インドネシア、タイ等で増加するものの、インド、バングラデシュ、フィリピン、ベトナムで減少することから世界全体では前年度より11.0百万トン減少（▲2.5%）し、436.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.6百万トン上方修正されており、国別には、インドネシアで上方修正、タイ、フィリピンで下方修正された。

【消費量】

消費量は、インドで減少が見込まれるものの、中国、インドネシア、ミャンマー、ベトナム、バングラデシュ、フィリピンで増加し、世界全体では前年度より2.2百万トン増加（0.5%）し、437.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン上方修正されており、国別には、インドネシア、ミャンマーで上方修正、バングラデシュで下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.5百万トン増加（8.6%）し、31.1百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではベトナムで輸出量の減少が、タイ、パキスタン、中国、エジプト、米国で輸出量の増加が見込まれている。一方、輸入国では、イラク、EU-27で輸入量の増加が、マレーシア、ナイジェリアで輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では0.1百万トン上方修正され、国別には、輸出について米国、エジプトで上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、中国、インドネシア、タイ、ベトナム等で積み増しされるものの、インド、フィリピン、日本で減少が見込まれ、世界全体では前年度より0.8百万トン減少（▲0.9%）し、92.5百万トンと見込まれ、期末在庫率は21.2%となる。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.8百万トン上方修正され、国別には、インドネシア、タイで上方修正、フィリピンで下方修正された。

表－1 世界の米需給

(単位:百万精米トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		対前年度 増減率(%)
			予測値	前月予測 からの変更	
生産量	434.4	447.3	436.3	1.6	▲2.5
中国	130.2	134.3	137.0	-	2.0
インド	96.7	99.2	84.5	-	▲14.8
インドネシア	37.0	38.3	38.8	1.8	1.3
バングラデシュ	28.8	31.0	30.0	-	▲3.2
ベトナム	24.4	24.4	24.3	-	▲0.4
タイ	19.8	19.9	20.4	▲0.1	2.8
フィリピン	10.5	10.8	10.2	▲0.1	▲5.1
消費量	428.5	434.9	437.1	0.6	0.5
中国	127.5	129.0	133.5	-	3.5
インド	90.5	93.2	86.7	-	▲6.9
インドネシア	36.4	37.1	37.6	0.2	1.4
バングラデシュ	30.7	31.0	31.1	▲0.3	0.3
ベトナム	19.4	19.0	19.2	-	0.8
フィリピン	13.5	13.7	13.8	-	1.0
ミャンマー	10.2	9.6	9.9	0.1	3.1
貿易量	31.2	28.6	31.1	0.1	8.6
(輸出)					
タイ	10.0	8.6	10.0	-	16.7
ベトナム	4.7	6.0	5.5	-	▲7.6
インド	4.7	2.0	2.0	-	0.0
パキスタン	3.0	3.0	3.8	-	26.7
米国	3.4	3.0	3.2	0.1	8.0
中国	1.0	0.8	1.5	-	97.4
エジプト	0.8	0.3	0.6	0.2	100.0
(輸入)					
フィリピン	2.6	2.6	2.6	-	0.0
イラン	1.5	1.7	1.7	-	0.0
ナイジェリア	1.8	1.7	1.6	-	▲5.9
サウジアラビア	1.0	1.4	1.4	-	0.7
EU-27	1.6	1.3	1.4	-	2.3
イラク	1.0	1.0	1.1	-	10.0
マレーシア	0.8	1.0	0.8	-	▲18.6
期末在庫量	81.0	93.3	92.5	1.8	▲0.9
中国	38.0	42.9	45.3	0.0	5.5
インド	13.0	17.0	13.0	-	▲23.5
インドネシア	5.6	7.1	8.5	1.5	20.3
タイ	2.7	4.8	5.9	0.7	23.0
フィリピン	4.4	4.1	3.1	▲0.1	▲23.9
日本	2.6	2.7	2.6	-	▲2.9
ベトナム	2.0	2.0	2.1	-	7.7
期末在庫率	18.9%	21.5%	21.2%	0.4	▲0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 米の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 中国

【需給状況】

中国の生産量は、単収と収穫面積が増加すると見込まれていることから、前年度より2.7百万トン増加（2.0%）し、137.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より4.5百万トン増加（3.5%）し、133.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.7百万トン増加（97.4%）し1.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン増加（6.1%）し、0.4百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.4百万トン増加（5.5%）し、45.3百万トンとなり、期末在庫率も33.5%（0.5ポイント増）に上昇する見込みである。

なお、前月予測からの改訂は、2008/09年度の輸出量がわずかに下方修正されたことから、2009/10年度の期首在庫量がわずかに上方修正された。この結果、期末在庫量がわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米の収穫は概ね終了した。

今年度は、政府の価格支持政策等により作付面積が増加するとともに、多くの産地で良好な天候に恵まれたため、史上最高の単収となった。

北部地域のジャポニカ米は、干ばつに見舞われたが、灌漑により被害は少なかった。

また、中部及び南部地域のインディカ米は、台風や洪水の被害も少なく豊作であった。

【貿易情報等】

中国については、2007年12月に増値税の輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課していたが、輸出税については2009年7月1日に撤廃された。また、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

なお、中国政府は2009年度の作付けを推進させるために500万トンの備蓄を計画したが、2009年7月下旬から放出を開始した。2010年2月中旬現在、概ね2割の落札があり、そのうちジャポニカ米については概ね7割の落札率となっている。また、その予定数量に関しては、需給のバランスを保つため、省別に現状に合わせて決められている。

世界の生産量シェア	1位（2009/10年度31.4%）
輸出量シェア	6位（2009/10年度 4.8%）

表－2 中国の米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	130.2	134.3	137.0 (135.1)	-	2.0
消費量	127.5	129.0	133.5 (128.0)	-	3.5
輸出量	1.0	0.8	1.5 (1.5)	-	97.4
輸入量	0.3	0.3	0.4 (0.9)	-	6.1
期末在庫量	38.0	42.9	45.3 (70.3)	0.0	5.5
期末在庫率	29.6%	33.1%	33.5% (54.3%)	0.0	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.92	29.24	29.68 (…)	-	1.5
単収(もみt/ha)	6.43	6.56	6.59 (…)	-	0.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

イ インド

【需給状況】

インドの生産量は、モンスーンの降雨の時期の遅れと降水量不足、9月下旬の豪雨のため、前年度より14.7百万トン減少（▲14.8%）し、84.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より6.5百万トン減少（▲6.9%）し、86.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の2.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、米国農務省によるとここ数年わずかな量であったが、2009/10年度は、生産量の減少により0.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は4.0百万トン減少（▲23.5%）し、13.0百万トンとなり、期末在庫率も14.7%（3.2ポイント減）に低下する見込みである。

なお、前月からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009年6月から7月にかけて、モンスーンの降雨の時期が遅れ、降水量が不足したことが、カリフ米（雨季米）の播種と移植にかなりの悪影響を及ぼすとともに、9月下旬の豪雨がカリフ米の米作に被害を与えた。

現在、カリフ米の収穫がほぼ終了し、ラビ期の米の作付けが行われている。

〔インド政府発表〕

インド政府によると、1月現在、カリフ米の生産量は、2008/09年度の84.5百万トンから2009/10年度には69.45百万トンに減少すると予想されている。

また、2月12日現在、ラビ期の米の作付面積は、昨年同期の3.3百万ヘクタールに対し、3.2百万ヘクタールであった。

ラビ期の米の生産量が平年並みになるとしても、2009/10年度の米の合計生産量は、15百万トンから20百万トンの減少が見込まれている。

なお、2008/09年度の米の生産量は、98.4百万トンで、そのうちカリフ米が84.5百万トン、ラビ米が13.9百万トンであった。

また、米の政府調達量は2010年2月12日現在、2008/09年度同期の22.2百万トンに対し、21.2百万トンとなっている。これは、主にパンジャブ州とハリヤナ州で灌漑により生産量が増加し、政府調達が順調に進んでいるものの、アンドラプラディッシュ州、タミルナドゥ州や西ベンガル州で政府調達量が減少したためである。

【貿易情報】

インドについては、非バスマティ米の輸出が禁止されており、現在も継続しているが、非公式に特定の国に一部輸出されていた。なお、種子用の非バスマティ米に限り輸出禁止が2008年9月に解除された。

また、2009年1月19日に米の輸出税を撤廃したが、その後、2009年12月7日には有機非バスマティ米について、1万トンの輸出許可がされた。

一方、輸入については、2009年10月14日に精米の輸入関税（70%）を2010年9月30日までの期限付きで撤廃した。

なお、2009年11月9日に3万トンの入札を実施したが、応札価格が高く不成立であった。

また、2009年11月20日の関係閣僚会議で、不足分を在庫分で補えることから、商工相は当面の米輸入の必要はないと述べた。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度19.4%）
輸出量シェア 5位（2009/10年度 6.4%）

表ー3 インドの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値 (FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	96.7	99.2	84.5 (85.0)	-	▲ 14.8
消費量	90.5	93.2	86.7 (92.8)	-	▲ 6.9
輸出量	4.7	2.0	2.0 (2.0)	-	0.0
輸入量	0.0	0.0	0.2 (0.1)	-	…
期末在庫量	13.0	17.0	13.0 (11.5)	-	▲ 23.5
期末在庫率	13.7%	17.9%	14.7% (12.1%)	-	▲ 3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.77	44.00	38.80 (…)	-	▲ 11.8
単収(もみt/ha)	3.31	3.38	3.27 (…)	-	▲ 3.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

ウ インドネシア

【需給状況】

インドネシアの生産量は、収穫面積の減少が見込まれるものの、単収が増加することから前年度より0.5百万トン増加（1.3%）し、38.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加（1.4%）し、37.6百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並の0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.4百万トン増加（20.3%）し、8.5百万トンとなり、期末在庫率も22.6%（3.5ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月からの改訂は、生産量が1.8百万トン、消費量が0.2百万トン、輸出量がわずかに上方修正され、輸入量が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が1.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ジャワ島の一部地域では乾燥天候により作付時期が遅れたものの、エルニーニョ等の影響が和らぎ、灌漑用の貯水レベルも通常レベルになったことや収量の高い品種の作付けが増えたことにより単収が増加し、生産量が前月の予想より1.8百万トン増加して史上最高の38.8百万トンに達すると見込まれている。

なお、引き続き生育期の天候には注視が必要である。

【貿易情報】

インドネシアについては、米の純輸入国であり主要な輸出国ではないが、2008年4月11日から輸出を禁止していたが、2008年の米の生産が豊作であったことを受け、政府は2009年4～6月に最大10万トンの高品質米の輸出を行うことを決定し、11社に輸出を許可した。

しかし、国内需給のひっ迫懸念から2009年7月に再度輸出を禁止した。

〔世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 8.9%）〕

表－4 インドネシアの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

（単位：百万精米トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.0	38.3	38.8 (40.2)	1.8	1.3
消費量	36.4	37.1	37.6 (39.5)	0.2	1.4
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	0.0	100.0
輸入量	0.4	0.3	0.3 (0.1)	▲ 0.1	0.0
期末在庫量	5.6	7.1	8.5 (4.4)	1.5	20.3
期末在庫率	15.4%	19.0%	22.6% (11.1%)	4.0	3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.90	12.17	12.00 (…)	-	▲ 1.4
単収(もみt/ha)	4.82	4.88	5.01 (…)	0.23	2.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

エ タイ

【需給状況】

タイの生産量は、収穫面積の拡大と単収の増加が見込まれていることから、前年度より0.5百万トン増加（2.8%）し、20.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（1.1%）し、9.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.4百万トン増加（16.7%）し、10.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並の0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.1百万トン増加（23.0%）し、5.9百万トンとなり、期末在庫率も30.0%（3.5ポイント増）まで上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、2007/08年度が生産量が0.5百万トン上方修正、2008/09年度が生産量が0.3百万トン上方修正されたことにより、2009/10年度の期首在庫量が0.8百万トン上方修正、生産量が0.1百万トン、消費量がわずかに下方修正された。この結果、期末在庫量が0.7百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

農業協同組合省米穀局が2月3日に公表したところによると、2009/10年度雨季作米の作付けは、9.2百万ヘクタールとみられ、98%が収穫済みとなっている。

乾季作米は、1.4百万ヘクタール作付けされ、生育状況は、53%が播種期、32%が分けつ期、7%が出穂期となっている。目標作付面積は、1.5百万ヘクタールである。

また、同米穀局が2月7日に公表したところによると、1月20日現在、ウタイターニー県、ピサヌローク県等の0.13百万ヘクタールでトビイロウンカによる虫害にあっている。

【貿易情報等】

2009年7月にタイとベトナムの米輸出団体は、米貿易での協力体制を強め、世界市場での交渉力の強化を目的とした合意書を取り交わした模様。

協力内容は、主に生産状況や生産技術情報の交換、輸出条件の共有化等とされている。

また、タイは、フィリピンとの間に米の貿易に関する2つの協定の締結に向け調整中。

1. タイ政府がフィリピン政府に年間80万トン強の米を輸出できるとするもので、このうち37万トンについてはフィリピンの輸入関税が課されないもの。
2. 両国の貿易会社間での契約で、タイからフィリピンに年間およそ50万トンの米を輸出できるとするもの。

世界の生産量シェア 6位（2009/10年度 4.7%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度32.2%）

表－5 タイの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.8	19.9	20.4 (21.1)	▲ 0.1	2.8
消費量	9.6	9.5	9.6 (11.9)	▲ 0.0	1.1
輸出量	10.0	8.6	10.0 (9.5)	-	16.7
輸入量	0.0	0.3	0.3 (0.3)	-	0.0
期末在庫量	2.7	4.8	5.9 (5.3)	0.7	23.0
期末在庫率	13.8%	26.5%	30.0% (24.8%)	3.5	3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.83	10.80	10.90 (…)	-	0.9
単収(もみt/ha)	2.77	2.78	2.84 (…)	▲ 0.01	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

オ ベトナム

【需給状況】

ベトナムの生産量は、作付面積が増加するものの、単収が昨年度より減少すると見込まれることから前年度より0.1百万トン減少（▲0.4%）し、24.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.2百万トン増加し（0.8%）、19.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.5百万トン減少（▲7.6%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度並の0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.1百万トンとなり、期末在庫率も8.5%（0.7ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

1月1日現在、春冬作については、昨年同期に比べ3.2%多い1.9百万ヘクタールで作付けが終了した。

地域別では、北部の省の作付面積は、0.1百万ヘクタールで昨年同期の72.1%、南部の省の作付面積は、1.8百万ヘクタールで同105.1%となっている。

また、秋稲単期作は、南部の地域で収穫作業が続けられた。南部地域全体では、作付面積の83.2%にあたる0.6百万ヘクタールで収穫が終了したが、昨年同期の95%にとどまっている。

このうちメコンデルタ地域では作付面積の70%に相当する0.3百万ヘクタールで収穫が終了した。好天に恵まれたこと、価格が比較的高値を維持していること等から、ロンアン省、キンザン省等では前期よりも収穫量が大幅に増えた地域が多い。

【貿易情報等】

ベトナムについては、政府契約以外の輸出業者による新規輸出契約を停止していたが、2008年6月13日からこれを解除した。また、2008年8月15日からは、一定基準の輸出価格を超えた場合に輸出税が賦課されていたが、2008年12月19日に課税が停止された。

なお、2009年7月にベトナムとタイの米輸出団体は、米貿易での協力体制を強め、世界市場での交渉力の強化を目的とした合意書を取り交わした模様。協力内容は、主に生産状況や生産技術情報の交換、輸出条件の共有化等とされている。

世界の生産量シェア 5位（2009/10年度 5.6%）
輸出量シェア 2位（2009/10年度17.7%）

表－6 ベトナムの米需給（市場年度：1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	24.4	24.4	24.3 (26.0)	-	▲ 0.4	
消費量	19.4	19.0	19.2 (20.7)	-	0.8	
輸出量	4.7	6.0	5.5 (6.3)	-	▲ 7.6	
輸入量	0.3	0.5	0.5 (0.5)	-	0.0	
期末在庫量	2.0	2.0	2.1 (3.4)	-	7.7	
期末在庫率	8.4%	7.8%	8.5% (12.6%)	-	0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.41	7.32	7.33 (…)	-	0.1	
単収(もみt/ha)	4.98	5.05	5.02 (…)	-	▲ 0.6	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

カ フィリピン

【需給状況】

フィリピンの生産量は、収穫面積の減少とともに台風被害等による単収の減少が見込まれていることから、前年度より0.6百万トン減少（▲5.1%）し、10.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（1.0%）し、13.8百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並の2.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.0百万トン減少（▲23.9%）し、3.1百万トンとなり、期末在庫率も22.7%（7.4ポイント減）と低下する見込みである。なお、前月からの改訂は、生産量が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は0.1百万トン減少した。

【生育進捗状況及び作柄】

2009年の米（もみ）生産量は、台風16号、17号の影響で引き起こされた単収の低下により、2008年の生産量よりも5.1%減少した。

【貿易情報等】

台風の影響で米の生産に被害が出たこと等から、フィリピンは11月から12月にかけて4回の米輸入入札を実施し、ベトナム産を中心に1.8百万トンの米を落札した。

また、2010年2月、フィリピン政府は、民間企業に最大20万トンの米の輸入を許可した。

なお、フィリピンは、タイとの間に米の貿易に関する2つの協定の締結に向け調整中。

1. フィリピン政府は、タイ政府から年間80万トン強の米を輸入できるとするもので、このうち37万トンについては輸入関税が課されない。
2. 両国の貿易会社間での契約で、タイからフィリピンに対し年間およそ50万トンの米を輸出できるとするもの。

（ 世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 2.3%）
輸入量シェア 1位（2009/10年度 8.4%） ）

表-7 フィリピンの米需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.5	10.8	10.2 (10.9)	▲ 0.1	▲ 5.1
消費量	13.5	13.7	13.8 (13.5)	-	1.0
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
輸 入 量	2.6	2.6	2.6 (2.3)	-	0.0
期末在庫量	4.4	4.1	3.1 (2.5)	▲ 0.1	▲ 23.9
期末在庫率	32.7%	30.2%	22.7% (…)	▲ 0.7	▲ 7.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.35	4.53	4.45 (…)	-	▲ 1.8
単収(もみt/ha)	3.83	3.77	3.64 (…)	▲ 0.03	▲ 3.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

キ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、作付面積及び単収が増加したため、前年度より0.5百万トン増加（7.9%）し、7.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加し、4.2百万トン（1.7%）となる見込みである。

輸出量は、0.2百万トン増加（8.0%）し、3.2百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン増加（9.8%）し、0.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.3百万トン増加（30.5%）し、1.3百万トンとなり、期末在庫率も17.2%（3.4ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、消費量がわずかに上方修正、輸出量が0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

収穫は、12月に全州にて概ね完了した。

2009/10年度については、長粒種は単収が増加したものの、作付面積が減少したため、生産量は前年より低下した。一方、中短粒種は単収が減少したものの、作付面積が増加したため、生産量は増加（33%増）し、約3.1百万トンになると推定されている。

2009/10年産全体では、収穫面積は4%増加し、単収は、7.94トン/ヘクタールとなった。この単収は、2007/08年度に次いで史上2番目の単収となった。

〔世界の輸出品シェア 4位（2009/10年度 10.4%）〕

表－8 米国の米需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.3	6.5	7.0 (7.0)	-	7.9
消費量	4.1	4.1	4.2 (4.2)	0.0	1.7
輸出量	3.4	3.0	3.2 (3.1)	0.1	8.0
輸入量	0.8	0.6	0.7 (0.7)	-	9.8
期末在庫量	0.9	1.0	1.3 (1.4)	▲ 0.1	30.5
期末在庫率	12.7%	13.7%	17.2% (19.2%)	▲ 1.6	3.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.11	1.20	1.26 (…)	-	5.0
単収(もみt/ha)	8.09	7.68	7.94 (…)	-	3.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」、
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

II 油糧種子

1 2009/10年度の国際的な油糧種子需給の概要

○2009/10年度の油糧種子需給（予測）のポイント

2009/10年度の油糧種子需給は、大豆の生産量が大幅に増加する見込みから、油糧種子全体の生産量は増加すると見込まれており、搾油用需要を中心として消費量も増加が見込まれている。

また、期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、油糧種子全体の需給は緩和されるものと見込まれる。

【生産量】

世界の油糧種子全体の生産量は、大豆の増加から前年度より38.6百万トン増加（9.8%）し、433.7百万トンとなる見込みである。

品目別には、なたねについては、ウクライナ、カナダで収穫面積の減少等から生産量の減少が見込まれるものの、大豆については、米国やアルゼンチン等で、収穫面積の増加や、昨年低下した単収の回復見込みから生産量は増加すると見込まれている。

【消費量】

世界の油糧種子全体の消費量は、堅調な搾油需要の拡大などから、前年度より12.2百万トン増加（3.0%）し、414.6百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、中国、アルゼンチン等で搾油用需要を中心とした増加が見込まれ、なたねについても、EU、インド、中国等で搾油用需要を中心とした増加が見込まれている。

【貿易量】

世界の油糧種子の貿易量は、2.3百万トン増加（2.4%）し、96.3百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、アルゼンチン、パラグアイが生産量の回復から輸出量の増加が見込まれている。一方、なたねについては、カナダ、ウクライナ等で生産量が減少することから、輸出量の減少が見込まれている。

【期末在庫量】

世界の油糧種子全体の期末在庫量は、16.7百万トン増加（30.8%）し、71.0百万トンとなる見込みである。また、油糧種子全体の期末在庫率は、期末在庫が積み増しされることから、17.1%と3.6ポイント上昇する見込みである。

品目別には、大豆は生産量が消費量を上回り、期末在庫を積み増すと見られている。

表－1 世界の油糧種子需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	油糧種子計	391.8	395.1	433.7	2.1	9.8
	うち、大豆	221.1	210.9	255.0	1.6	20.9
	なたね	48.5	58.2	59.5	0.1	2.1
	綿実	45.9	41.3	39.8	0.0	▲ 3.5
	ピーナッツ	32.4	34.2	30.8	0.0	▲ 9.8
	ひまわり種	27.0	33.0	30.8	0.4	▲ 6.9
消費量	油糧種子計	400.8	402.4	414.6	1.1	3.0
	うち、大豆	229.7	222.6	235.1	0.4	5.6
	なたね	49.1	54.8	59.2	0.5	8.0
	綿実	45.9	41.7	39.9	0.1	▲ 4.4
	ピーナッツ	32.3	33.4	31.0	0.0	▲ 7.2
	ひまわり種	27.0	32.4	31.4	0.1	▲ 3.1
うち、 搾油用	油糧種子計	338.9	340.1	350.8	1.0	3.2
	うち、大豆	201.9	194.6	204.2	0.4	5.0
	なたね	46.7	52.0	56.2	0.5	7.9
	綿実	34.4	32.0	31.1	0.0	▲ 2.9
	ピーナッツ	15.2	15.4	13.9	0.0	▲ 10.1
	ひまわり種	24.1	28.7	27.7	0.1	▲ 3.4
貿易量	油糧種子計	92.5	94.0	96.3	0.9	2.4
	うち、大豆	79.5	76.8	81.4	0.8	6.0
	なたね	8.1	12.1	10.1	0.0	▲ 16.1
	綿実	0.8	0.5	0.5	▲ 0.1	12.5
	ピーナッツ	2.4	2.3	2.1	0.0	▲ 6.2
	ひまわり種	1.4	2.2	1.8	0.2	▲ 16.8
期末 在庫量	油糧種子計	61.7	54.3	71.0	▲ 0.2	30.8
	うち、大豆	53.0	41.6	59.7	▲ 0.1	43.4
	なたね	3.5	7.1	7.0	▲ 0.0	▲ 0.9
	綿実	1.2	0.8	0.8	0.0	▲ 5.0
	ピーナッツ	1.1	1.6	1.2	▲ 0.0	▲ 23.9
	ひまわり種	2.6	2.8	2.0	▲ 0.1	▲ 28.6
期末 在庫率	油糧種子計	15.4%	13.5%	17.1%	▲ 0.1	3.6
	うち、大豆	23.1%	18.7%	25.4%	▲ 0.1	6.7
	なたね	7.2%	12.9%	11.9%	▲ 0.2	▲ 1.1
	綿実	2.7%	1.9%	1.9%	▲ 0.0	▲ 0.0
	ピーナッツ	3.4%	4.6%	3.8%	▲ 0.0	▲ 0.8
	ひまわり種	9.5%	8.6%	6.4%	▲ 0.2	▲ 2.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS &D」

注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2009/10年度の油糧種子需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、生産量は大豆、なたねともに上方修正され、油糧種子全体で2.1百万トン上方修正されている。また、消費量についても大豆、なたねともに上方修正され、油糧種子全体で1.1百万トン上方修正されている。期末在庫量は大豆、なたねともに下方修正され、油糧種子全体では0.2百万トン下方修正された。

○ 大豆

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.6	0.4	0.4	0.8	...	▲ 0.1
米国	-	0.3	0.3	0.7	-	▲ 1.0
ブラジル	1.0	▲ 0.5	▲ 0.5	1.3	-	▲ 0.9
カナダ	-	-	-	-	-	-
中国	-	0.1	0.1	-	0.5	0.4
アルゼンチン	-	0.3	0.3	▲ 2.0	▲ 0.2	1.5

○ なたね

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	0.1	0.5	0.5	0.0	...	▲ 0.0
カナダ	-	▲ 0.2	▲ 0.2	0.3	▲ 0.1	▲ 0.2
豪州	-	-	-	-	...	0.0
EU-27	0.1	0.4	0.3	▲ 0.2	0.1	▲ 0.0
中国	-	0.2	0.2	-	0.4	0.2
インド	-	-	-	-	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：期末在庫量の変更については、2008/09年度の需給データの改訂により、2009/10年度の期首在庫量が修正されたことに伴う場合もある。

2 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要

○2009/10年度の大豆需給（予測）のポイント

大豆の供給面では、主要生産国である米国、ブラジル、アルゼンチンにおいて、面積が過去最高を記録した。また、前年度低下した単収は、天候が良好に推移したことから回復する見込みである。このことから、世界の生産量は史上最高となると見込まれている。

需要面では、EU等で減少するものの、引き続き中国等で搾油用需要を中心に拡大することから、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから、期末在庫率は前年度を上回ると見込まれる。

【生産量】

生産量は、中国等で減少するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国や南米のアルゼンチン、ブラジル、パラグアイ等で増加することから、世界全体では前年度より44.1百万トン増加（20.9%）し、255.0百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.6百万トン上方修正されており、国別にはブラジル、パラグアイで上方修正された。

【消費量】

消費量は、搾油用需要を中心にEUで減少するものの、中国、アルゼンチン、米国等で増加が見込まれることから、世界全体では前年度より12.5百万トン増加（5.6%）し、235.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.4百万トン上方修正されており、国別には米国、アルゼンチン、中国で上方修正され、ブラジル、EUで下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より4.6百万トン増加（6.0%）し、81.4百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では米国の中国向け輸出量、前年度干ばつで減産したアルゼンチン、パラグアイの輸出量の増加が見込まれ、需要が集中していたブラジルで輸出量の減少が見込まれる。一方、輸入国では、EUの輸入量がやや減少するものの、アジア諸国を中心に輸入量が増加し、中国は旺盛な需要が続くと見込まれる。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.8百万トン上方修正されており、国別には、輸出国ではブラジル、米国、パラグアイで上方修正、アルゼンチンで下方修正され、輸入国では中国で上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから世界全体では前年度より18.1百万トン増加（43.4%）し、59.7百万トンとなり、期末在庫率は25.4%（6.7ポイント増）と前年度を上回る見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン下方修正されており、国別には米国、ブラジル等で下方修正され、アルゼンチン、中国で上方修正された。

表－1 世界の大豆需給

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	221.1	210.9	255.0	1.6	20.9
米国	72.9	80.7	91.5	-	13.3
ブラジル	61.0	57.0	66.0	1.0	15.8
アルゼンチン	46.2	32.0	53.0	-	65.6
中国	14.0	15.5	14.5	-	▲ 6.5
インド	9.5	9.1	8.8	-	▲ 3.3
パラグアイ	6.9	3.9	7.1	0.4	82.1
カナダ	2.7	3.3	3.5	-	4.9
消費量	229.7	222.6	235.1	0.4	5.6
うち搾油用	201.9	194.6	204.2	0.4	5.0
中国	49.8	51.4	55.5	0.1	7.8
米国	51.6	48.0	51.6	0.3	7.6
アルゼンチン	36.2	33.3	36.9	0.3	11.0
ブラジル	35.1	35.4	34.6	▲ 0.5	▲ 2.4
EU-27	16.1	14.1	13.8	▲ 0.1	▲ 2.3
インド	9.4	8.8	8.8	-	▲ 0.3
日本	4.2	3.8	4.1	-	8.2
貿易量	79.5	76.8	81.4	0.8	6.0
(輸出)					
米国	31.5	34.9	38.1	0.7	9.1
ブラジル	25.4	30.0	25.3	1.3	▲ 15.6
アルゼンチン	13.8	5.6	7.9	▲ 2.0	40.5
パラグアイ	5.4	2.4	5.3	0.4	120.8
カナダ	1.8	2.0	2.0	-	▲ 0.8
(輸入)					
中国	37.8	41.1	42.5	0.5	3.4
EU-27	15.1	13.2	13.0	-	▲ 1.6
日本	4.0	3.4	4.0	-	16.3
メキシコ	3.6	3.3	3.5	-	5.2
台湾	2.1	2.2	2.3	-	1.5
タイ	1.8	1.5	1.7	-	12.9
インドネシア	1.1	1.4	1.6	-	14.9
期末在庫量	53.0	41.6	59.7	▲ 0.1	43.4
アルゼンチン	21.8	16.2	24.4	1.5	50.7
ブラジル	18.9	10.5	16.8	▲ 0.9	59.7
中国	4.2	9.0	10.0	0.4	11.5
米国	5.6	3.8	5.7	▲ 1.0	52.0
EU-27	0.8	0.6	0.8	▲ 0.0	33.9
期末在庫率	23.1%	18.7%	25.4%	▲ 0.1	6.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) 大豆の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、需給のひっ迫見込みによる価格高騰で農家の作付け意欲が増加し、作付面積が史上最高を記録した。また、天候が良好に推移したことから単収も史上最高を記録した。前年度より10.7百万トン増加（13.3%）し、史上最高の91.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、畜産向けの需要の回復や輸出向けの大豆粕需要の増加や、搾油用需要の増加が見込まれることから、前年度より3.6百万トン増加（7.6%）し、51.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量増による供給量の増加や、中国向けの輸出需要の増加が見込まれることから、前年度より3.2百万トン増加（9.1%）し、38.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.9百万トン増加（51.9%）し、5.7百万トンとなり、期末在庫率は6.4%（1.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、大豆粕等の堅調な輸出需要による国内の圧搾量が増加したことから消費量で0.3百万トン、中国の需要増により輸出量で0.7百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で1.0百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

大豆の主要18州の作付けは、雨がちな天候の影響でコーンベルト東側の主産地であるイリノイ州等で作付けが遅れたものの、2009年7月初めにほぼ終了した。

その後は天候にも恵まれ、生育の遅れは取り戻しつつあったが、10月に入り低温で雨がちな天候により収穫作業に遅れが生じた。12月で収穫がほぼ終了したと見込まれる。

なお、2010/11年度の作付けは、例年5月初旬頃までには始まる。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース73.5%）
世界の生産量シェア 1位（2009/10年度 35.9%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 46.8%）

表－2 米国の大豆需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.9	80.8	91.5	-	13.3
消費量	51.6	48.0	51.6	0.3	7.6
うち搾油用	49.1	45.2	46.8	0.3	3.5
輸出量	31.5	34.9	38.1	0.7	9.1
輸入量	0.3	0.4	0.2	-	▲ 38.9
期末在庫量	5.6	3.8	5.7	▲ 1.0	51.9
期末在庫率	6.7%	4.5%	6.4%	▲ 1.2	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	25.96	30.22	30.92	-	2.3
単収(t/ha)	2.81	2.67	2.96	-	10.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

イ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、世界的な大豆需要の増加から、依然国際価格が高水準であることや、肥料価格下落の影響、とうもろこし等からの作付け転換により収穫面積の増加が見込まれることから、前年度より9.0百万トン増加(15.8%)し、史上最高の66.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用の減少に伴い前年度より0.8百万トン減少(▲2.4%)し、34.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、アルゼンチンの生産量の回復により集中していたブラジルへの需要が減少し、前年度より4.7百万トン減少(▲15.6%)し、25.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、6.3百万トン増加(59.7%)し、16.9百万トンとなり、期末在庫率も28.2%(12.0ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の消費量で1.1百万トン上方修正され、2009/10年度の期首在庫量で1.1百万トン下方修正された。単収の上方修正により生産量で1.0百万トン上方修正、消費量で0.5百万トン下方修正、生産量の増加や輸出需要増により輸出量で1.3百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で0.9百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ブラジルの大豆は、12月中には主産地の中西部を中心に作付けが概ね終了したが、降雨過多であった南部のリオグランデドスル州では終了が遅れた。また、収穫作業は例年より早く開始されており、2月中旬で約2割収穫された。

なお、多雨によって主要産地で大豆さび病のリスクが高まっており、今後の天候に注視が必要。

ウ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、前年度に上昇した単収が低下するものの、主産地である東部のオンタリオ州とケベック州で収穫面積が増加する見込みであることから、前年度より0.2百万トン増加(4.9%)し、3.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用を中心に増加することから、前年度より0.1百万トン増加(8.9%)し、1.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並みの2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度並みの0.2百万トンとなり、期末在庫率も5.7%(1.0ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダの大豆は、一部の地域では低温が続き、生育が遅れが生じたことで収穫の開始が遅れたものの、11月中旬に概ね収穫が終了した。

なお、2010/11年度の作付けは例年5月初旬までには始まる。なお、カナダの統計局によると、今年度を上回る作付けが見込まれる。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2008年数量ベース 15.3%)
世界の生産量シェア 2位 (2009/10年度 25.9%)
輸出量シェア 2位 (2009/10年度 31.1%)

表-3 ブラジルの大豆需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Conab)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	61.0	57.0	66.0 (66.7)	1.0	15.8
消費量	35.1	35.4	34.6 (36.3)	▲0.5	▲2.4
うち搾油用	32.1	32.5	31.6 ...	▲0.5	▲2.8
輸出量	25.4	30.0	25.3 (26.4)	1.3	▲15.6
輸入量	0.2	0.0	0.2 (0.1)	-	275.0
期末在庫量	18.9	10.6	16.9 (4.8)	▲0.9	59.7
期末在庫率	31.3%	16.1%	28.2% (7.6%)	▲1.9	12.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	21.30	21.70	23.10 (23.21)	-	6.5
単収(t/ha)	2.86	2.63	2.86 (2.88)	0.05	8.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
Conab (February 9, 2010)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2008年数量ベース 8.8%)
世界の生産量シェア 7位 (2009/10年度 1.4%)
輸出量シェア 5位 (2009/10年度 2.5%)

表-4 カナダの大豆需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.7	3.3	3.5 (3.5)	-	4.9
消費量	1.8	1.7	1.8 (1.8)	-	8.9
うち搾油用	1.4	1.3	1.4 ...	-	6.9
輸出量	1.8	2.0	2.0 (2.0)	-	▲0.8
輸入量	0.3	0.4	0.4 (0.4)	-	▲2.6
期末在庫量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	26.4
期末在庫率	4.2%	4.7%	5.7% (8.6%)	-	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.17	1.20	1.38 (1.38)	-	15.0
単収(t/ha)	2.30	2.79	2.54 (2.54)	-	▲9.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC 「Grains and Oilseeds (January 28, 2010)」

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、主産地の一部で生育期の低温等により単収が減少し、収穫面積がとうもろこしにシフトして減少すること等から、前年度より1.0百万トン減少（▲6.5%）し、14.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加等から前年度より4.1百万トン増加（7.8%）し、55.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は、国家備蓄政策による影響で国内大豆に比べ輸入大豆の割安感から前年度は増加したが、今年度も需要が旺盛であることから、1.4百万トン増加（3.4%）し、42.5百万トンとなる見込みである。なお、中国の輸入量は世界の約5割を占めている。

一方、輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（25.0%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より1.1百万トン増加（11.5%）し、10.1百万トンとなり、期末在庫率は18.0%（0.6ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量で0.1百万トン、米国からの輸出成約増により輸入量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.4百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

中国の平年生産量の約40%を占める黒龍江省では、生育期の5月に乾燥天候で同省の45%以上が乾燥状態となり、さらに6～7月の低温等により被害があったことから、単収の低下が予想される。9月から収穫が始まり、10月中に収穫が終了した。

なお、2010/11年度の作付けは、例年4月初旬頃には始まる。

【貿易情報等】

2007年12月に増値税の輸出還付を取消し、2008年1月から輸出税を課していたが、残りの黄大豆と種子用大豆の輸出税についても2009年7月1日に撤廃された。

また、中国政府は2009年の作付けを推進させるため、725万トンの備蓄をしていた。9月頃には新穀の収穫が始まることから、在庫スペースの確保のため、7月下旬から11月25日までに約840万トンの競売（再競売あり）を行ったが、最低入札価格が現物市場の価格よりも上回るため、約14万トンの落札に留まっている。12月に入ってから大豆の競売は行われていない。

なお、2009年産大豆についても、農家支援の目的から、最低買入価格を定め、備蓄向けの買入を行うことが発表されている。

一方、中国は2010年1月1日から大豆等を輸入する際、同国商務省の輸入許可証が必要となった。

我が国の輸入先国シェア4位（2008年数量ベース 2.3%）
世界の生産量シェア 4位（2009/10年度 5.7%）
輸入量シェア 1位（2009/10年度 52.2%）

表－5 中国の大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	15.5	14.5 (14.5)	-	▲ 6.5
消費量	49.8	51.4	55.5 (…)	0.1	7.8
うち搾油用	39.5	41.0	44.9 (44.6)	0.1	9.5
輸 出 量	0.5	0.4	0.5 (…)	-	25.0
輸 入 量	37.8	41.1	42.5 (43.4)	0.5	3.4
期末在庫量	4.3	9.0	10.1 (…)	0.4	11.5
期末在庫率	8.5%	17.4%	18.0% (…)	0.6	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.75	9.13	8.80 (8.90)	-	▲ 3.6
単収(t/ha)	1.60	1.70	1.65 (1.63)	-	▲ 2.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (January 22, 2010)」

オ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、前年度は干ばつの影響で大幅な減少となったが、小麦等から大豆への面積のシフトで前年度より21.0百万トン増加（65.6%）し、53.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要を中心に増加することから、前年度より3.6百万トン増加（11.0%）し、36.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復に伴い、2.3百万トン増加（40.4%）し、7.9百万トンとなる見込みである。また、輸入量は、1.3百万トン減少（▲100.0%）し、0.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より8.2百万トン増加（50.7%）し、24.4百万トンとなり、期末在庫率は54.5%（12.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量で0.3百万トン上方修正、ブラジルの早期輸出見込みに伴う輸出競争激化から輸出量で2.0百万トン、輸入量で0.2百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量で1.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大豆の作付けは、10月末に始まった。一部産地での雨不足により作付けが遅れたものの、その後の降雨により土壌水分が補給された。

1月下旬にはほぼ作付けが終了した。

なお、主要産地では降雨により生育に良好な状態が続いているものの、気温と湿度が高いことから、大豆さび病の発生や虫害等の被害が懸念される。今後の天候に注視が必要。

【貿易情報】

大豆輸出税を中心とした政府の農業政策に対し、2009年3月に大豆の輸出税の現行35%からの引き下げを求め、穀物の売却を拒否するストライキを行った。

なお、アルゼンチンの上院は8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、8月末に再度ストライキを行っており、依然として政府と農家で対立が続いている。

（世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 20.8%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 9.6%））

表-6 アルゼンチンの大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	46.2	32.0	53.0 (51.0)	-	65.6
消費量	36.2	33.3	36.9 (…)	0.3	11.0
うち搾油用	34.6	31.9	35.3 (33.2)	0.3	10.6
輸出量	13.8	5.6	7.9 (8.0)	▲2.0	40.4
輸入量	3.0	1.3	0.0 (…)	▲0.2	▲100.0
期末在庫量	21.8	16.2	24.4 (27.7)	1.5	50.7
期末在庫率	43.5%	41.7%	54.5% (…)	5.3	12.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.37	16.00	18.80 (18.75)	-	17.5
単収(t/ha)	2.82	2.00	2.82 (2.72)	-	41.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (January 22, 2010)」

3 なたね

(1) 国際的ななたね需給の概要

○2009/10年度のなたね需給（予測）のポイント

なたねの供給面では、ウクライナ、カナダ等で減少するものの、EU、中国等で増加することから、世界の生産量は増加が見込まれている。需要面では、バイオディーゼル需要の拡大に伴い、EU、インド、中国等で搾油用需要を中心に世界の消費量は増加が見込まれている。期末在庫量については、生産量が消費量を上回るものの、期末在庫量が前年度をやや下回り、期末在庫率は低下すると見込まれている。

【生産量】

生産量は、ウクライナ、カナダ等で減少するものの、EU、中国等で増加することから、世界全体では前年度より1.3百万トン増加（2.1%）し、59.5百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正されており、国別にはEUで上方修正され、ロシアでわずかに下方修正された。

【消費量】

消費量は、バイオディーゼル需要の増加に伴う油糧種子全般での需要増大により、EU、インド、中国等で搾油用を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より4.4百万トン増加（8.0%）し、59.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン上方修正されており、国別にはEU、中国で上方修正され、カナダ等で下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.0百万トン減少（▲16.1%）し、10.1百万トンとなる見込みである。

国別には、主要輸出国であるカナダ、ウクライナ等で生産量が減少することから、輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、アラブ首長国連邦等で増加するものの、中国で国内生産が増加することや、EUで国内生産の増加やウクライナからの輸出量の減少により、輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、国別には、輸出国ではカナダ、ウクライナ等で上方修正、EUで下方修正された。輸入国では中国、EUで上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、カナダ等で積み増しされるものの、世界全体では前年度より0.1百万トン減少（▲0.9%）し、7.0百万トンとなり、期末在庫率は、11.9%に低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体でわずかに下方修正されており、国別にはカナダ等で下方修正され、中国等で上方修正された。

表－1 世界のなたね需給

(単位：百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	48.5	58.2	59.5	0.1	2.1
EU-27	18.4	19.0	21.4	0.1	12.7
中国	10.6	12.1	13.2	-	9.1
カナダ	9.6	12.6	11.8	-	▲ 6.7
インド	5.5	7.0	6.6	-	▲ 5.7
ウクライナ	1.1	2.9	1.9	-	▲ 34.5
豪州	1.2	1.9	1.8	-	▲ 4.9
ロシア	0.6	0.8	0.7	▲ 0.0	▲ 8.6
消費量	49.1	54.8	59.2	0.5	8.0
うち搾油用	46.7	52.0	56.2	0.5	7.9
EU-27	19.1	21.3	23.3	0.4	9.3
中国	11.4	13.7	14.7	0.2	6.6
インド	5.9	6.1	7.0	-	13.4
カナダ	4.4	4.7	5.0	▲ 0.2	6.1
日本	2.3	2.2	2.2	-	▲ 0.9
メキシコ	1.3	1.2	1.4	-	19.5
米国	1.1	1.2	1.2	▲ 0.0	▲ 0.8
貿易量	8.1	12.1	10.1	0.0	▲ 16.1
(輸出)					
カナダ	5.8	7.9	6.5	0.3	▲ 17.7
ウクライナ	0.9	2.6	1.8	0.2	▲ 32.1
豪州	0.5	1.1	1.2	-	5.2
米国	0.4	0.2	0.2	-	▲ 4.7
EU-27	0.4	0.1	0.2	▲ 0.2	104.1
ロシア	0.1	0.1	0.1	-	58.7
カザフスタン	0.1	0.0	0.1	0.0	204.3
(輸入)					
EU-27	0.7	3.3	2.0	0.1	▲ 40.2
日本	2.3	2.1	2.2	-	3.6
メキシコ	1.3	1.2	1.4	-	19.0
中国	0.8	3.0	1.5	0.4	▲ 50.6
アラブ首長国連邦	0.5	0.6	1.0	-	59.9
米国	0.9	0.8	0.6	-	▲ 23.0
パキスタン	0.5	0.6	0.6	-	5.7
期末在庫量	3.5	7.1	7.0	▲ 0.0	▲ 0.9
EU-27	1.0	1.9	1.9	▲ 0.0	▲ 1.3
カナダ	1.5	1.7	2.1	▲ 0.2	28.9
中国	0.0	1.4	1.4	0.2	3.6
インド	0.1	1.0	0.6	-	▲ 35.5
豪州	0.4	0.5	0.4	0.0	▲ 11.7
米国	0.2	0.2	0.1	0.0	▲ 55.7
ロシア	0.1	0.2	0.1	▲ 0.0	▲ 42.0
期末在庫率	7.2%	12.9%	11.9%	▲ 0.2	▲ 1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、PS&D

(2) なたねの主要生産・輸出国等の需給状況

ア カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積や単収の減少により、前年度より0.8百万トン減少（▲6.7%）し、11.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、新規工場の操業開始により搾油能力が拡大することで搾油用を中心に、前年度より0.3百万トン増加（6.1%）し、5.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少や消費量の増加で供給が減少することや、中国の輸入の減少等で、前年度より1.4百万トン減少（▲17.7%）し、6.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.4百万トン増加（28.9%）し、2.1百万トンとなり、期末在庫率も18.7%（5.5ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量で0.2百万トン下方修正され、主に中国向けの需要により輸出量で0.3百万トン上方修正され、輸入量で0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量で0.2百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダのなたねは、9月初旬頃に収穫が始まったものの、10月中は雨がちな天候で収穫が遅れた。11月前半には天候が改善し、11月中には概ね収穫が終了した。

2010/11年度の作付けは、例年5月初旬頃に始まる。なお、カナダの統計局によれば、作付面積は前年度並みと見込まれる。

イ 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、単収が増加したものの、収穫面積が減少することから、前年度より0.1百万トン減少（▲4.9%）し、1.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並みの0.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（5.2%）し、1.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.1百万トン減少（▲11.7%）し、0.4百万トンとなり、期末在庫率は22.7%（4.0ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の輸出量でわずかに下方修正されたことから、2009/10年度の期首在庫量でわずかに上方修正された。この結果、期末在庫量でわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

豪州のなたねは、12月には概ね収穫が終了した。なお、2010/11年度の作付けは、例年4月中頃に始まる。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース 95.5%）
世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 19.8%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 64.2%）

表-2 カナダのなたね需給（市場年度：8月～翌年7月）

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.6	12.6	11.8 (11.8)	-	▲ 6.7
消費量	4.4	4.7	5.0 (5.5)	▲ 0.2	6.1
うち搾油用	4.1	4.3	4.5 (…)	▲ 0.2	5.1
輸出量	5.8	7.9	6.5 (6.5)	0.3	▲ 17.7
輸入量	0.2	0.1	0.1 (0.1)	▲ 0.1	7.4
期末在庫量	1.5	1.7	2.1 (1.7)	▲ 0.2	28.9
期末在庫率	14.4%	13.2%	18.7% (13.8%)	▲ 1.9	5.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.23	6.49	6.10 (6.11)	-	▲ 6.0
単収(t/ha)	1.54	1.95	1.93 (1.94)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC「Grains and Oilseeds (January 28, 2010)」

我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース 4.5%）
世界の生産量シェア 6位（2009/10年度 3.0%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 11.4%）

表-3 豪州のなたね需給（市場年度：12月～翌年11月）

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1.2	1.9	1.8 (1.9)	-	▲ 4.9
消費量	0.6	0.7	0.7 (0.7)	-	1.5
うち搾油用	0.6	0.6	0.7 (0.6)	-	1.6
輸出量	0.5	1.1	1.2 (1.2)	-	5.2
輸入量	…	…	… (…)	…	…
期末在庫量	0.4	0.5	0.4 (…)	0.0	▲ 11.7
期末在庫率	33.1%	26.7%	22.7% (…)	2.2	▲ 4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	1.28	1.67	1.27 (1.39)	-	▲ 24.0
単収(t/ha)	0.95	1.11	1.40 (1.37)	-	26.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE「Australian crop report (16 February 2010)」(※ABAREは作付面積)

ウ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、穀物価格の低下傾向により、小麦からなたねへの転換が促進され収穫面積が増加することから、前年度より2.4百万トン増加（12.7%）し、21.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、EUではなたねは主要な油糧種子であり、バイオディーゼル需要の増加などから搾油需要が増加し、前年度より2.0百万トン増加（9.3%）し、23.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（104.1%）し、0.2百万トンとなり、輸入量は国内生産が増加したことからウクライナからの輸入が減少し、前年度より1.3百万トン減少（▲40.2%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度並みの1.9百万トンとなり、期末在庫率は8.2%（0.9ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量で0.1百万トン、消費量で0.4百万トン、輸入量で0.1百万トン上方修正され、輸出量で0.2百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量でわずかに下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度のなたねの作付けは、フランスの主な産地では2009年10月になっても乾燥状態が続き、発芽せず再作付けが行われた地域もある。なお、11月に入り降雨があり、土壌水分が補給された。現在は、大半の産地ではスノーカバーにより、生育に適した状態である。

（世界の生産量シェア 1位（2009/10年度 36.0%）
輸入量シェア 2位（2009/10年度 19.8%））

表-4 EU-27のなたね需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.4	19.0	21.4 (21.4)	0.1	12.7
消費量	19.1	21.3	23.3 (23.7)	0.4	9.3
うち搾油用	18.3	20.3	22.2 (22.7)	0.3	9.4
輸 出 量	0.4	0.1	0.2 (0.2)	▲ 0.2	104.1
輸 入 量	0.7	3.3	2.0 (2.4)	0.1	▲ 40.2
期末在庫量	1.0	1.9	1.9 (1.5)	▲ 0.0	▲ 1.3
期末在庫率	4.9%	9.1%	8.2% (6.1%)	▲ 0.2	▲ 0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	6.55	6.24	6.59 (6.41)	▲ 0.01	5.6
単収(t/ha)	2.80	3.05	3.25 (3.34)	0.02	6.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (January 22, 2010)」

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、2008年に中国政府が農家収入を保障するために、市場価格より高く買い上げる政策を行ったことにより作付意欲が高まり、前年度より1.1百万トン増加(9.1%)し、13.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要を中心に前年度より1.0百万トン増加(6.6%)し、14.7百万トンとなる見込みである。

輸入量は、国内生産の増加で減少し、前年度より1.5百万トン減少(▲50.6%)し、1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度並みの1.4百万トンとなり、期末在庫率は9.9%(0.3ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量で0.2百万トン、搾油業者にとって国産より輸入なたねの利益率が高いことから輸入量で0.4百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で0.2百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度のなたねの作付けは11月上旬で概ね終了した。主な産地での1月初旬の低温、その後の雲南省等西南地域の干ばつ、湖北省、河南省等の一部では雨がちな天候で土壌水分過多となっており生育懸念があることから、今後の天候に注視が必要である。

【貿易情報等】

中国は2010年1月1日から大豆等を輸入する際、同国商務省の輸入許可証が必要となった。

オ インド

【需給状況】

インドの生産量は、収穫面積及び単収が減少することから、前年度より0.4百万トン減少(▲5.7%)し、6.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用を中心に前年度より0.9百万トン増加(13.4%)し、7.0百万トンとなる見込みである。

輸出量、輸入量とも貿易の実績はほとんどない。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン減少(▲35.5%)し、0.6百万トンとなり、期末在庫率は9.0%(6.8ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

インドのなたねは、例年9月ごろに作付けが開始されるが、主要産地で土壌水分が不足したため、作付けが例年よりも遅れた。

全体の約4割を占めるラジャスタン州をはじめ、ウッタープラデシュ州、ハリヤナ州では12月初旬までには概ね作付けが終了した。今後の生育に注視が必要である。

(世界の生産量シェア 2位(2009/10年度 22.2%)
輸入量シェア 3位(2009/10年度 14.8%))

表-5 中国のなたね需給(市場年度:10月~翌年9月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.6	12.1	13.2 (12.8)	-	9.1
消費量	11.4	13.7	14.7 (…)	0.2	6.6
うち搾油用	10.9	13.2	14.1 (14.7)	0.2	6.5
輸 出 量	…	…	… (…)	…	…
輸 入 量	0.8	3.0	1.5 (2.4)	0.4	▲ 50.6
期末在庫量	0.0	1.4	1.4 (…)	0.2	3.6
期末在庫率	0.0%	10.1%	9.9% (…)	0.9	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.64	6.59	7.00 (7.18)	-	6.2
単収(t/ha)	1.87	1.84	1.89 (1.78)	-	2.7

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (January 22, 2010)」

(世界の生産量シェア 4位(2009/10年度 11.1%))

表-6 インドのなたね需給(市場年度:10月~翌年9月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.5	7.0	6.6 (6.1)	-	▲ 5.7
消費量	5.9	6.1	7.0 (…)	-	13.4
うち搾油用	5.2	5.5	6.2 (5.7)	-	13.8
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	25.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	0.0
期末在庫量	0.1	1.0	0.6 (…)	-	▲ 35.5
期末在庫率	1.7%	15.9%	9.0% (…)	-	▲ 6.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.70	6.60	6.50 (6.40)	-	▲ 1.5
単収(t/ha)	0.96	1.06	1.02 (0.95)	-	▲ 3.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (January 22, 2010)」

Ⅲ 今月のトピックス

【ロシアが目指す食料安全保障】

2月1日にロシアのメドベージェフ大統領は、食料安全保障ドクトリン（基本政策）に署名した。このドクトリンでは穀物、肉類等品目ごとに食料自給率の目標を定め、2020年までに達成するとしている。ロシアは旧ソ連時代の1970年代あたりから穀物の大輸入国に転落していたが、現在では米国・EUと並ぶ有数の小麦輸出国となり、畜産分野においても生産量の拡大が見られる中、なぜ今あえて自給率の向上を掲げてきたのか。ロシア政府の発表資料等を紹介しながら、ロシアにおける近年の食料需給の推移と生産拡大の取り組みについて見てみる。

1. ロシアの食料安全保障ドクトリンについて

(1) 概要とその目的

我が国のお隣のロシアでも食料安全保障については国家的な課題として取り上げられ、高い生活水準を通じた国民の生活の質向上という戦略的優先事項を実現するために不可欠な条件であるとされている。これを受けて出されたこのドクトリンには食料安全保障分野での国家経済政策の目的、課題及び基本的な方向性が示されている。

その方向性と具体策とは、

- ① 社会的弱者に対する健康的な食料供給の保障
低所得層の優先支援並びに妊婦、授乳期の女性、乳幼児や児童及び社会福祉施設に対する健康的な食料品の確保。
- ② インフラ整備による地方住民に対する食料供給の保障
都市部との生活レベルに差異のある農村部や遠隔地住民に対する食料品の物理的アクセス向上のための交通アクセス、商業インフラ及び各種外食業の増加のための条件の創設。
- ③ 食料の備蓄品目及びその水準の決定
国の物的備蓄の構成に関して、適切な物的価値の品目とその蓄積水準の決定。

とされ、以上の基本的方向性に沿って、国内生産の安定と必要な備蓄を保障することが食料安全保障の戦略的目的である。また、生産量の多い穀物については輸出拡大を通じて、国家の外交・経済的利益を強化し、世界における戦略的安全性と互恵的なパートナー関係の保持に向けた活動を行うことで、世界的な大国となることを目指している。

(2) 食料自給率の達成目標について

また、このドクトリンの中で、ロシアの食料的自立のために、食料を大きくくりにいくつかの品目群に分け、2020年までに達成すべき品目群ごとの食料自給率の目標を示している。

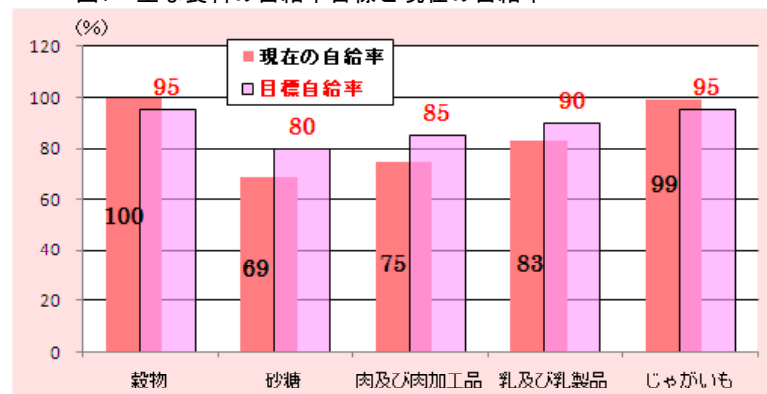
その食料自給率目標は以下のとおりとされている（図1）。

- | | | | |
|----------------|---------|---------|---------|
| ◇ 穀物 | : 95%以上 | ◇ 水産品 | : 80%以上 |
| ◇ 砂糖 | : 80%以上 | ◇ ジャガイモ | : 95%以上 |
| ◇ 植物油 | : 80%以上 | ◇ 食用塩 | : 85%以上 |
| ◇ 肉及び肉加工品（肉換算） | : 85%以上 | | |
| ◇ 乳及び乳製品（乳換算） | : 90%以上 | | |

沿ヴォルガ地区 サマーラ州 ジャガイモの収穫



図1 主な食料の自給率目標と現在の自給率



資料：目標自給率(赤字)はドクトリンの数値。現在の自給率(黒字)は、2009年12月4日及び2010年1月15日、2月17日のロシア農業大臣演説等で発表された数値で、具体的な計算方法等については不明。
穀物については目標達成済みで国内需要は100%確保と発表されている。なお、FAO「Food outlook 2009.12」を用いた当方の試算では123%とみられる。

2. ロシアの穀物と肉類の需給状況の推移

(1) 穀物

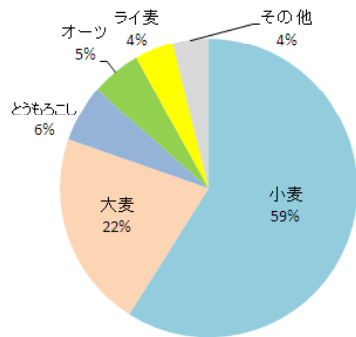
ロシアの穀物生産量は2008年には1億トンに達し、そのうち小麦は約6割、大麦が約2割を占める(図2)。小麦については、米国を抜いて世界4位(EUを1カ国でカウントしないと3位)である。2008/09年度は63.7百万トンと豊作となり、2009/10年度は一部地域の干ばつにより、豊作であった前年度には及ばないものの、61.7百万トンと高水準を維持している(図3)。

一方、大麦についても、2008/09年度は23.1百万トンと豊作で、2009/10年度は17.9百万トンに減少したものの、世界で第2位(EUを1カ国とカウントしないと世界1位)となっている(図4)。一方、米の生産についてもロシア農業省は力を入れており、2009年産米の生産量は新生ロシアで史上最高の約59万トン(精米ベース)となり、スクリニック農業大臣がプーチン首相に評価されたと言われている。また、とうもろこしについては、ここ100年間で初めて輸出国となったと言われている。

穀物についてはすでに自給率目標を達成済みであり、輸出促進(2020年には現在の2倍の4000万トンの穀物輸出)が今後の課題とされている。輸出量についても、小麦では18百万トンと世界のシェアの15%を占めるまでになった。低価格と、地理的な優位性を生かして中近東諸国を主な輸出先国としているが、ウクライナ、カザフスタンの旧ソ連諸国との輸出競争も激化している。

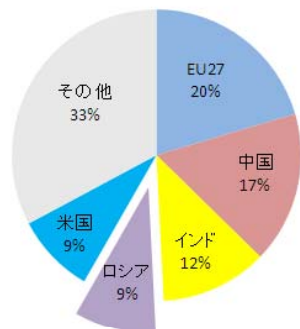
当方の試算値を使ってロシアの小麦の自給率の推移を見ると、1992年の旧ソ連崩壊直後は輸入依存が高かったが、2002年以降輸出が増加し、自給率が上昇している(図5)。大麦については、もともと自給率は高く、ここ数年は100%以上を維持しているとみられる(図6)。

図2 ロシアの穀物生産量
(2008年 1億800万トン)



資料：ロシア農業省
「Agriculture in Russia 2008」

図3 世界の小麦生産
(世界6.8億トン)
うち ロシア62百万トン 4位



資料：米国農務省「PS&D」(2010.2) 数値は2009/10年度

図4 世界の大麦生産
(世界1.5億トン)
うち ロシア18百万トン 2位

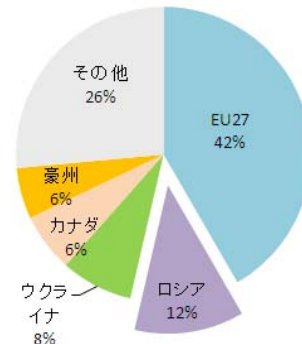
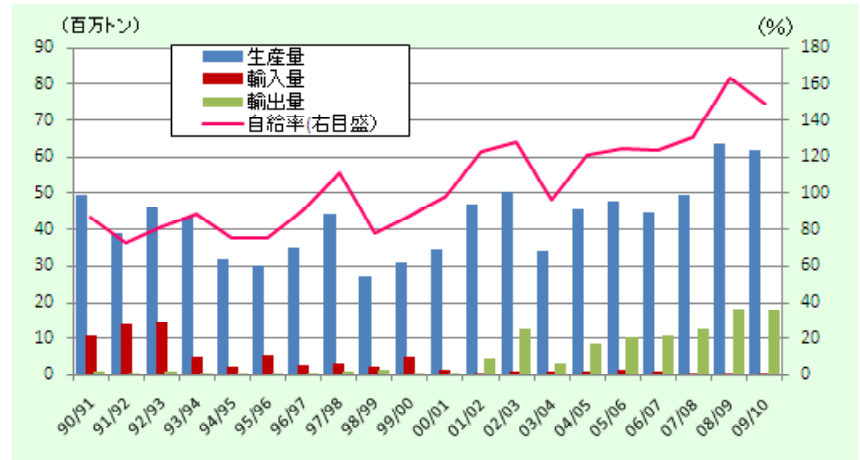


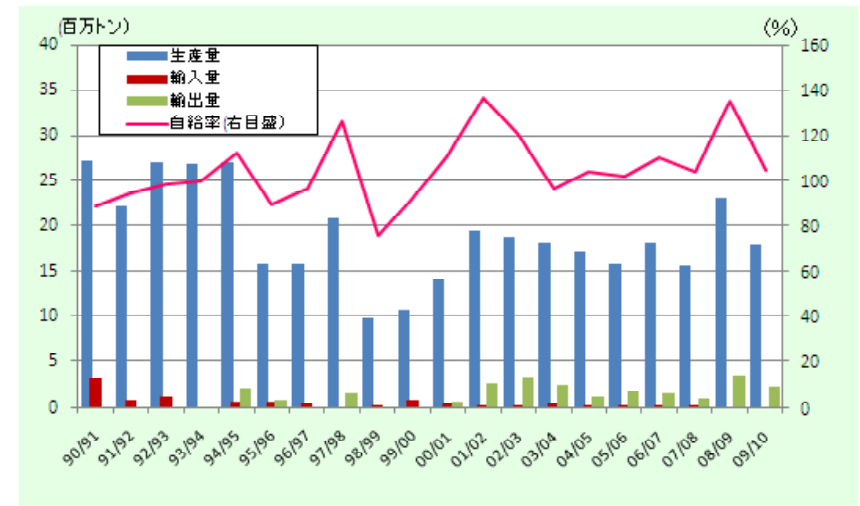
図5 ロシアの小麦の生産量、輸入量、輸出量と自給率の推移



資料：米国農務省 「PS&D」 (2010.2)

注：自給率は米国農務省のデータをもとに試算したもので、生産量/国内消費量で計算している(以下同じ)。そのため、図1の数値と異なる可能性がある。

図6 ロシアの大麦の生産量、輸入量、輸出量と自給率の推移



資料：米国農務省 「PS&D」 (2010.2)

(2) 肉類

一方、肉類については、新生ロシア成立後生産量の減少により輸入依存度が急増した。鶏肉は97年に自給率が2割程度まで落ち込んだとみられるが、その後生産量の増加に伴い上昇に転じている。一方、牛肉、豚肉については生産量の回復は遅れ、2008年には自給率が60%前後まで落ち込んだ(図7)。ドクトリンでは、肉類の自給率の向上が重要な課題とされ、2009年は、畜産業の発展の推進や関税措置の実施により、肉類全体の年間消費量914万トンに占める国内生産量は670万トン(Slaughter weight、と畜重量、以下同)となり、輸入量は250万トンまで減少している。特に鶏肉に関しては、近年、生産量が大きく増加している。

3 ドクトリン実現に向けた動き

(1) 穀物

穀物では、輸出拡大に向け、特に黒海沿岸及び極東における流通インフラの整備が課題となっている。本年2月には黒海沿岸クラスノダール地区のトゥアプセ港に、年間250万トンの取扱能力のある穀物輸出ターミナルを完成させた。また、隣接するノボロシースク港の整備拡張も計画されている模様。

なお、穀物輸出に関しては、輸出補助金の適用や、従来の中近東の市場に加え、外資系穀物商社を通じた東南アジア等新規輸出市場の開拓も行っていると伝えられている。



(2) 肉類

2012年までに国内需要量に対する輸入量の割合を18%まで減少させるため、品質の向上及び食肉150万トンの生産量増加(約25%)に取り組む。

このため政府としても投資支援を行うとしており、鶏肉については養鶏団地形成に向け、310億ルーブルの政府助成ローンにより23の新規事業を立ち上げ、4~5年後には自給の達成を目指す。また牛肉については、イタリアとの農業ビジネス分野の交流による技術協力を通じ、加工工場をロシア国内に建設する予定であり、大規模な加工工程からなる工場の稼働を通じて、国内での高品質の牛肉の生産拡大を目指す。

(3) その他

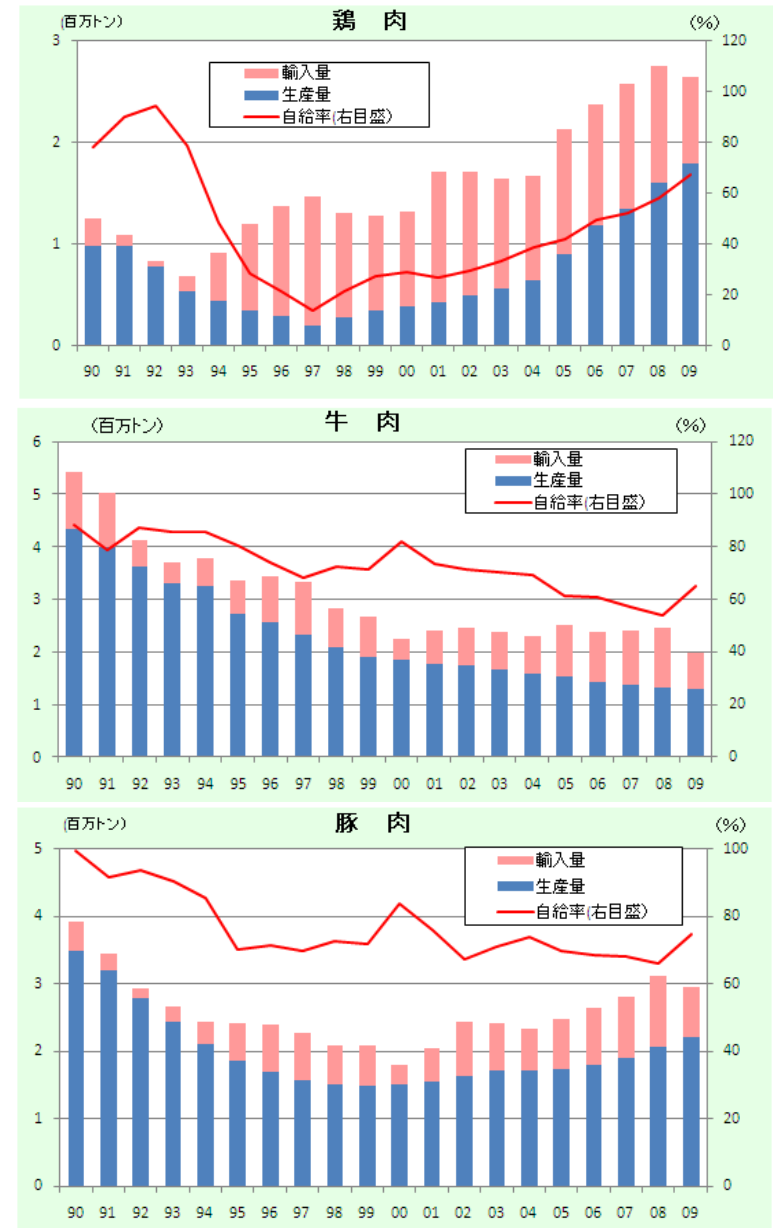
砂糖については、甜菜の生産量拡大による輸入粗糖からの脱却を目指すため、輸入関税率を据え置き、甜菜生産の収益性の向上を図る。また、乳製品については、酪農企業や家族経営酪農家の成長を促進し生産量の拡大を目指すため、輸入関税の引き上げによる輸入量の削減を図る、等の措置を行うとされている。

4 結び

今後の課題として、本ドクトリンの中でも重要な位置を与えられている、穀物の輸出拡大と畜産物の自給率向上の取り組みをどのようにバランスさせるかがある。

畜産の振興に伴い、飼料穀物の需要も増加することが予想される。飼料用需要を中心とした穀物の国内消費量の増加に対し、目標としている穀物輸出量の確保が十分に行われるのか、引き続きロシアの動向については注目される。

図7 ロシアの肉類の生産量、輸入量と自給率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(2010.2)

注：鶏肉はSlaughter weight、牛肉、豚肉はCarcass weight

【2010/11年度における米国の穀物等需給見通しについて】

米国農務省は、2月18日及び19日に「農業アウトLOOKフォーラム 2010」を開催し、その中で2010/11年年度における米国の小麦、とうもろこし、大豆等の需給見通しについて公表したので、その概要を紹介する。なお、この予測は、5月11日に公表が予定されている「World Agricultural Supply and Demand Estimates (WASDE)」において、米国作付面積意向等調査結果を反映したものに更新される予定である。

1 品目別の作付面積予測

～とうもろこしの作付面積が拡大、小麦と大豆が縮小～

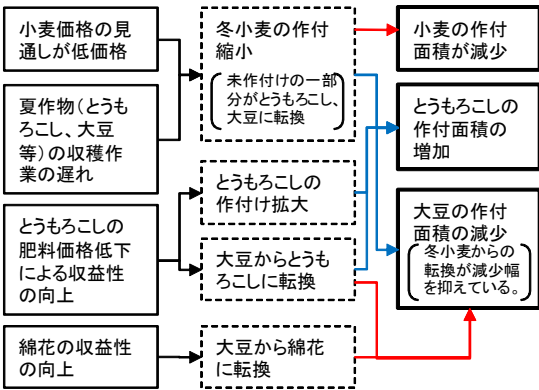
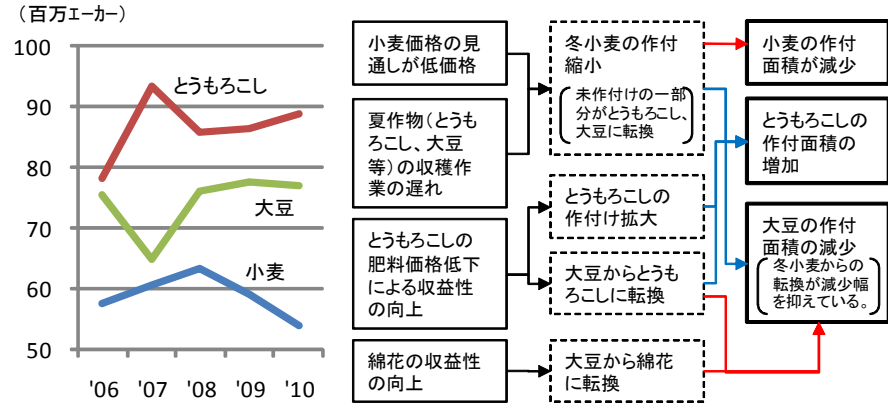
冬小麦の作付面積は、小麦価格の見通しが低価格であることと天候不順による夏作物の収穫作業の遅れなどから1913年以来の低い水準となった。このため、小麦の作付面積は、前年度に比べ9.0%減少し、53.8百万エーカー（21.8百万ha）と予測されている。とうもろこしは、肥料価格の低下などによる収益率の上昇や減少した冬小麦の代替などから前年度に比べ2.9%増加し、89.0百万エーカー（36.0百万ha）と予測されている。大豆については、とうもろこしや綿花の高い収益性によって作付が競合するコーンベルトや南部諸州で大豆の作付が減少することなどから、前年度に比べ0.6%減少し、77.0百万エーカー（31.2百万ha）と予測されている。

2 小麦の需給予測

～生産量は減少するが、期末在庫量は高水準が継続～

小麦の生産量は、作付面積の減少に伴う収穫面積の減少と予測単収（1985-2009年の傾向値）が昨年の単収を下回ったことから前年度に比べ12.2%減少し、52.9百万トンと予測されている。消費量は、人口の増加に伴う食用需要の増加に加え、前年度から繰り越される期首在庫量が多く飼料用需要も増加すると見られることなどから、前年度に比べ5.4%増加し、33.9百万トンと予測されている。輸出量は、ここ37年間で最も少ない輸出量であった昨年度からわずかに回復すると見込まれることから、前年度に比べ3.0%増加し、23.1百万トンと予測されている。しかしながら、大半の小麦輸出国が多く在庫を抱えている中、世界的な小麦の豊作が見込まれており、2010/11年度は米国の輸出量は低水準に留まると予測されている。期末在庫量は、需要量（消費量+輸出量）が生産量を上回ることから前年度に比べ4.2%減少し、25.6百万トン、期末在庫率も前年度に比べ4.0ポイント低下し、44.8%と予測されている。しかしながら、期末在庫率は過去23年間で昨年度に続き、2番目の高水準となっている。

図-1 品目別の作付面積の変動とその要因



注：→は増加要因、→は減少要因である。

図-2 小麦の需給予測

年 度	2008/09	2009/10	2010/11	
			予測値	対前年度増減率(%)
生産量	68.0	60.3	52.9	▲ 12.2
消費量	34.3	32.2	33.9	5.4
うち飼料用	7.0	4.6	5.7	23.5
輸 出 量	27.6	22.5	23.1	3.0
輸 入 量	3.5	3.1	3.0	▲ 4.3
期末在庫量	17.9	26.7	25.6	▲ 4.2
期末在庫率	28.9%	48.9%	44.8%	▲ 4.0
(参考)				
収穫面積(百万ha)	22.54	20.19	18.49	▲ 8.4
単収(t/ha)	3.02	2.99	2.86	▲ 4.2

資料：USDA「Grains and Oilseeds Outlook for 2010」により試算
注：試算は、17°ッシュェル=0.0272155トン、1エーカー=0.404685ヘクタールに換算

3 とうもろこしの需給予測

～エタノール原料用需要は引き続き増加するも伸び率は低下～

とうもろこしの生産量は、予測単収（1990-2009年の傾向値）が昨年の単収を下回ったものの、作付面積の増加に伴う収穫面積の増加があることから前年に比べ0.1%増加し、334.3百万トンと予測されている。

消費量は、肉類の需要の伸び悩みから飼料用需要が減少するものの、食用・工業用需要がエタノール原料用需要を中心に増加することなどから、前年に比べ0.2%増加し、283.0百万トンと予測されている。

なお、再生可能燃料基準の2011年の伸びが前年より少なく規定されている中、エタノール原料用需要の増加は、これまでの伸びに比べ低く抑えられ、前年度に比べ4.7%の増加と予測されている。また、景気後退後のガソリンの消費量の回復が遅く、ガソリンに混合されるエタノールの需要の制限要因と見られている。

輸出量は、競合する小麦の飼料用仕向けが引き続き多いものの、世界的に家畜生産が回復する中、前年度に比べ5.0%増加し、53.3百万トンと予測されている。

期末在庫量は、需要量（消費量+輸出量）が生産量を上回ることから前年に比べ3.8%減少し、42.0百万トン、期末在庫率も前年に比べ0.6ポイント低下し、12.5%と予測されている。

4 大豆の需給予測

～南米の大豆豊作により、米国の消費量、輸出量ともに減少～

大豆の生産量は、作付面積の減少に伴う収穫面積の減少と予測単収（1989-2009年の傾向値）が昨年の単収を下回ったことから前年に比べ3.0%減少し、88.7百万トンと予測されている。

消費量は、南米での大豆の豊作により競合する大豆粕輸出の減少が見込まれており、これに伴い搾油用の需要が減少することなどから、前年度に比べ4.0%減少し、49.6百万トンと予測されている。

輸出量は、南米の豊作による輸出量の増加などから、前年に比べ5.4%減少し、36.1百万トンと予測されている。

期末在庫量は、生産量が需要量（消費量+輸出量）を上回ることから前年に比べ57.1%増加し、9.0百万トン、期末在庫率も前年に比べ4.1ポイント増加し、10.5%と予測されており、2006/07年度以降、初めて10%を上回ると見込まれている。

図-3 とうもろこしの需給予測

(単位:百万トン)

年 度	2008/09	2009/10	2010/11	
			予測値	対前年度増減率(%)
生産量	307.2	334.1	334.3	0.1
消費量	259.0	282.3	283.0	0.2
うち飼料用	133.3	141.0	135.9	▲ 3.6
うちエタノール用	93.4	109.2	114.3	4.7
輸出量	47.2	50.8	53.3	5.0
輸入量	0.4	0.3	0.4	50.0
期末在庫量	42.5	43.7	42.0	▲ 3.8
期末在庫率	13.9%	13.1%	12.5%	▲ 0.6
(参考)				
収穫面積(百万ha)	31.81	32.21	33.10	2.8
単収(t/ha)	9.66	10.37	10.10	▲ 2.6

資料: USDA 「Grains and Oilseeds Outlook for 2010」

注: 試算は、17°ッシュェル=0.0254012トン、1エーカー=0.404685ヘクタールに換算

図-4 大豆の需給予測

(単位:百万トン)

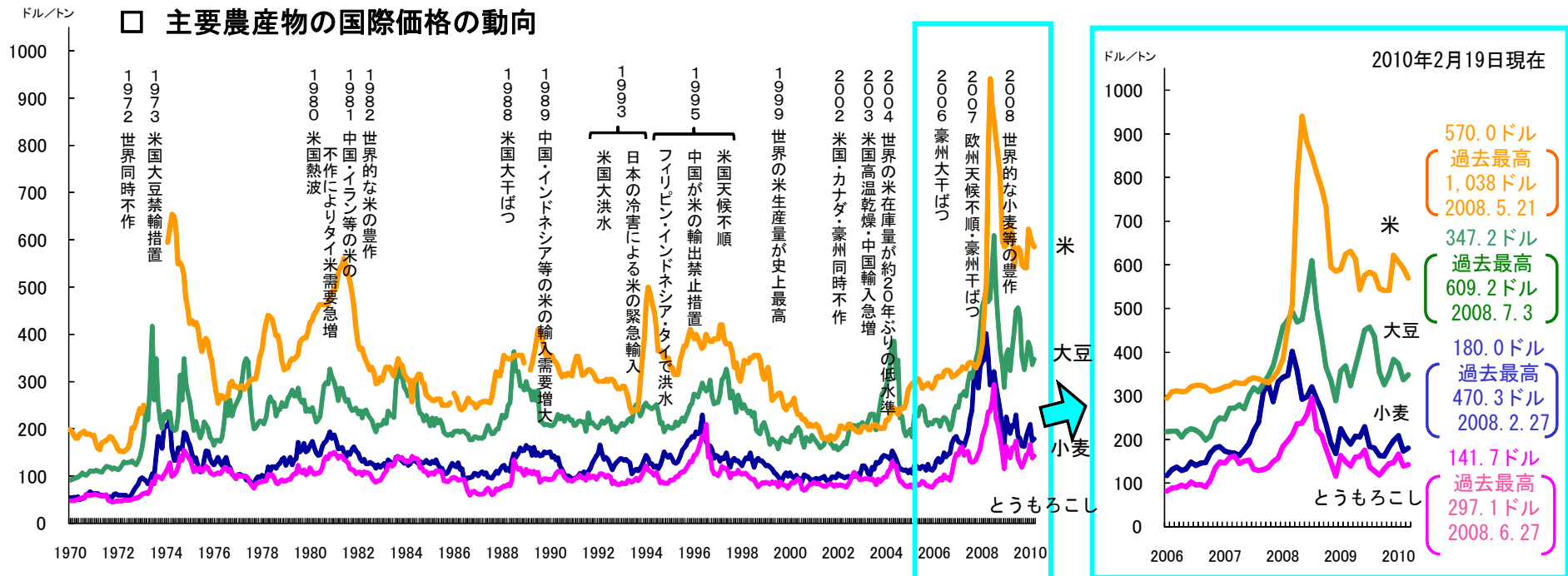
年 度	2008/09	2009/10	2010/11	
			予測値	対前年度増減率(%)
生産量	80.7	91.5	88.7	▲ 3.0
消費量	48.0	51.6	49.6	▲ 4.0
うち搾油用	45.2	46.8	45.0	▲ 3.8
輸出量	34.9	38.1	36.1	▲ 5.4
輸入量	0.4	0.2	0.2	0.0
期末在庫量	3.8	5.7	9.0	57.1
期末在庫率	4.5%	6.4%	10.5%	4.1
(参考)				
収穫面積(百万ha)	30.23	30.92	30.76	▲ 0.5
単収(t/ha)	2.67	2.96	2.88	▲ 2.5

資料: USDA 「Grains and Oilseeds Outlook for 2010」

注: 試算は、17°ッシュェル=0.0272155トン、1エーカー=0.404685ヘクタールに換算

(参考) 世界の農産物価格の動向 (ドル/トン)

- 穀物等の国際価格は、2006年秋頃から上昇基調で推移し、2008年春から夏にかけて最高値を更新。その背景には、基本的には、① 中国等の途上国の経済発展による食料需要の増大、② バイオ燃料による需要増大、③ 地球規模の気候変動の影響といった構造的な要因のほか、輸出国の輸出規制があった。特に米は、貿易量の割合が低いことから、価格変動幅が特に大きかった。2008年夏以降は、小麦等の豊作予測などに加え、世界金融危機による投機資金の流出、世界的な不況による穀物需要の減退懸念から最高値に比べ大幅に低下した。
- 2008年末以降、南米での干ばつ、米国の天候による作付けの遅れ、中国の旺盛な大豆の輸入需要等により、穀物価格は、再び上昇基調で推移したが、2009年6月以降の米国の良好な天候、10月以降の米国中西部での低温・雨がちな天候等により値が上下した。2010年1月以降、南米の豊作予測や、需給緩和予測等により値を下げているものの、2006年秋頃に比べ1.3~1.8倍の水準。



注: 小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。

米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

【利用上の注意】

海外食料需給レポート (Monthly Report) は、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて調査した情報、公的機関 (各国政府機関、FAO、IGC等) の公表資料、民間の調査会社 (Oil World、インフォーマ社情報等) から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者によるワーキンググループ (※参照) において検証、整理、分析したものである。

※ワーキンググループメンバー：

大臣官房食料安全保障課、大臣官房国際部国際政策課、主要穀物等の所管課 (総合食料局食品産業振興課、食糧部計画課、食糧貿易課、生産局畜産部畜産振興課)、食品産業関係課 (総合食料局食品産業振興課、生産局生産流通振興課、畜産部畜産振興課)、農林水産政策研究所

- 海外食料需給レポート (Monthly Report) で使用している統計数値は、主に米国農務省が2月22日までに発表した当月分の情報を引用している。さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページ (<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>) を参照されたい。
主な参考資料
「World Agricultural Supply and Demand Estimates (February 2010)」、「Grain: World Markets and Trade (February 2010)」、「Oilseeds: World Markets and Trade (February 2010)」、「World Agricultural Production (February 2010)」、「PS&D (February 2010)」など
- 2009/10年度の数値は予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されるものである。また、2007/08年度、2008/09年度の数値も、公式統計の確定・発表などを受けて今後変更されることがある。したがって、本資料に掲載している数値を利用する際は、今後変動しうる数値である点に留意いただきたい。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として設定されている。同じ市場年度であっても、国、作物によって年度の開始月は異なる。収穫の時期が1年間に2回ある作物の場合は、どちらか一方の収穫時期に合わせて市場年度が設定されている。
例：米国小麦の2009/10年度は、2009年6月から2010年5月であり、この時期に収穫される作物に関して予測が行われる。2009/10年度であれば、2008年9月～10月に作付けされ2009年6月～7月に収穫される冬小麦と、2009年4月～5月に作付けされ2009年8月～9月に収穫される春小麦が、予測の対象となる。
各国別、作物別の市場年度は、米国農務省のホームページに掲載されている。
<http://www.fas.usda.gov/psdonline/psdAvailability.aspx>
- 各数量については、各国の市場年度により作成しているため、A国からB国に穀物等が輸出された場合、輸出された時点のA国の市場年度と輸入された時点のB国の市場年度が異なる場合がある。このため、世界合計の輸入量及び輸出量の両者の総量は一致しない場合がある。
また、各国の需給バランスについては、
前年度期末在庫量 + 生産量 + 輸入量 = 消費量 + 輸出量 + 当年度期末在庫量
となっており、これらを合計した世界計も同様の需給バランスとなっている。
したがって、世界合計の輸入量と輸出量が一致していない (世界合計の輸入量 ≠ 世界合計の輸出量) 場合には、
前年度期末在庫量 + 生産量 ≠ 消費量 + 当年度期末在庫量 → 生産量 - 消費量 ≠ 当年度期末在庫量 - 前年度期末在庫量
となり、生産量と消費量の差が期末在庫量の増減量と一致しないことに留意いただきたい。
- 「今月のトピックス」については、干ばつ等の異常気象など特に注目すべき情報や各種機関等から最近公表された食料需給等に関連するレポートの内容の紹介など、さまざまな関連情報について提供することを目的としたものである。
- 本資料の引用等については、出所 (農林水産省発行「海外食料需給レポート (Monthly Report)」) を併記されたい。
なお、本資料に関するご質問、ご意見等は、農林水産省大臣官房食料安全保障課までお願いします。

TEL : 03-3502-8111 (内線3805)
FAX : 03-6744-2396